2008年10月号 vol.196

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

兵庫医科大学キャンパス見学会　村田　宏雄入試センター長

兵庫医療大学オープンキャンパス　看護学部「赤ちゃん人形を使って呼吸数や脈拍数を測定」

特集 兵庫医療大学オープンキャンパス

04 最近の主な出来事

＜兵庫医科大学＞

05 学長メッセージ「医師不足の要因と政府の対応と現状」

06 The New England Journal of Medicine掲載（笹子教授）

07 早期臨床体験実習（兵庫医科大学、関西学院大学）

08 キャンパス見学会

09 学位授与／西医体等結果報告

11 クロアチア・リエカ大学交換留学

＜兵庫医科大学病院＞

12 病院長メッセージ「外科再編のねらい」

13 外科再編

15 人間ドック等健診事業／院外処方／検査体制変更

16 （株）エイチ・アイ車椅子入浴装置寄贈／合同防災訓練

＜篠山病院＞

17 篠山病院再生に向けて

＜兵庫医療大学＞

18 学長メッセージ「兵庫医療大学の目指すところ」

19 早期臨床体験実習

20 薬剤師国家試験制度の改革とその対策／医療用手洗い監視センサー共同開発

21 ひょうご講座／鈴木香さん(水泳部)インカレ（日本学生選手権水泳競技大会）出場

＜学校法人兵庫医科大学＞

22 規程等の制定・改定／組織改正

23 物流センター開設について

24 省エネルギー活動報告

25 兵庫医療大学のための募金状況報告

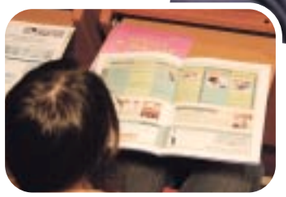
26 卒業生紹介
～平田 俊吉さん（兵庫医科大学 第1期生）・平田 二紀代さん（旧姓:中井）（兵庫医科大学 第2期生）、北村 文彦さん（兵庫医科大学 第13期生）～

27 職場リポート
～兵庫医科大学病院　麻酔科／兵庫医科大学病院　看護部　外来化学療法／兵庫医療大学　共通教育センター～

30 Join us! ー課外活動紹介ー
～兵庫医科大学　剣道部・硬式庭球部／兵庫医療大学　野球部・芸術研究会～

32 新聞掲載記事／クロアチア駐日大使表敬訪問

兵庫医療大学 オープンキャンパス



受験生はもとより保護者の方々にも人気のオープンキャンパス。大学の雰囲気を味わったり模擬授業が体験できたりと、いまや志望校を決めるための大切な機会となっています。兵庫医療大学では、6回にわたって開催しました。薬学部・看護学部・リハビリテーション学部（理学療法学科・作業療法学科）のそれぞれの特徴や「チーム医療」について解説・体験するプログラムが盛りだくさん！活気にあふれたその様子をレポートします。

ゲームを通じて「チーム医療」の大切さを実感！

それぞれにカードが配られます。

「チーム医療を学ぼう！」と題して行われたのが、チーム医療についての簡単な解説と「チームビルディングゲーム」。職種を超えた医療への意識と情報共有の大切さを実感していただきました。ゲームでは6人ずつのチームに分かれて自己紹介の後、参加者にはそれぞれ6枚のカードが配られます。そのカードに書かれた情報は、同じチームの仲間に言葉で伝えることは出来ますが、直接見せてはいけません。自分だけに与えられた情報を言葉で交換し合いながら、一つの問題を解いていくゲームです。
はじめはなかなか打ち解けられなかった参加者たちも、徐々にコミュニケーションがとれてきます。お互いが必要な情報をタイミングよく出せるかがポイントです。

うまくコミュニケーションがとれたチームは大正解！

カードには、それだけでは意味を成さない情報が。

それぞれが情報を出し合い、必要な情報だけを取捨選択していきます。

結構、頭を使います。だんだんと真剣に。

ボランティアの学生が大活躍

オープンキャンパスを支えているのが、学生のボランティアスタッフ。それぞれの学部のプログラムやキャンパスツアーなどに駆け回りながら、緊張気味の参加者に、にこやかに話しかけていました。また、交流コーナーなどでは、学生生活や受験勉強についての質問に真剣に答える姿も見られました。

入試個別相談コーナー

薬　学　部

薬学部では、「薬学的漢方」「好評！軟膏作り」の体験と、特別企画のお弁当付きランチョンセミナーが開催され、漢方薬を試飲したり軟膏を混ぜ合わせたりしながら、薬学への理解を深めていただきました。

夏バテ予防効果のある漢方薬成分を含むお茶を試飲していただきました。

説明文を読んで、形・色・香りをヒントに生薬の種類を当てる「生薬当てクイズ」も好評。

“ STOP the 湿疹! ”軟膏と“ お肌スベスベ ”軟膏作りを体験。

お弁当を食べながらのランチョンセミナー
8月9日のテーマは『心房細動にご用心
～この夏放っておくと大変なことになりますよ～』でした。

看　護　学　部

看護学部では、4つの実習室でそれぞれ異なった体験実習を行いました。参加者はみんな真剣。さすがは未来の医療従事者です。

「救急蘇生を体験しよう」

人形を使っての救命体験。
心臓マッサージって結構大変！

「聴診器を使ってみよう」

人形なのに聴診器を当てると、ドクドクドク。

「妊婦を体験しよう」

お腹に重しをつけて妊婦さん気分。
こんなに重いんだ！

人形を使って、赤ちゃんの呼吸数や脈拍数を実際に測ってみます。

「高齢者を体験しよう」

身体に重しを付けたり
ゴーグルやヘッドホンを
装着して、運動機能や関節機能、
視力、聴力などが低下した状態を体験。

立ち上がるのが大変です。

リハビリテーション学部

理学療法学科、作業療法学科とも、それぞれの特徴を生かした模擬講義を企画。実際に身体の動きを感じながら、リハビリテーションの意義を学んでいただきました。

理学療法学科

模擬講義「筋肉を触ろう!」のほか、特殊な板の上を歩き足の裏のどの部分に圧力がかかっているかを調べる歩行分析、関節の反射や筋力、血圧の測定など様々な体験をしてもらいました。

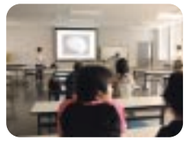
「筋肉を触ろう!」の講義。筋肉を実際に触ってみる。

学生が実演しながら説明してくれます。

電気で筋肉を刺激すると勝手に腕が!

作業療法学科

「作業療法と脳の働き」と題した講義では、赤色(近赤外光)の光を用いて頭皮上から大脳の働きを測定する光ポトグラフィ装置を使って、生け花をしている人の大脳の働きの測定も行われました。



脳の進化と働きをビデオやスライドを使って解説。

リハビリ用の箸やゲームなどを体験。

作業療法の授業で学生が作った作品の展示も。

共通教育展示コーナー

人体模型や物理学・電波天文学の前田教授手作りの万華鏡などが展示されました。

先生方の解説付き!

うまくバランスをとって立ててみよう。

参加者の声

「漢方のお茶を試飲したり軟膏を作ったりと実際このように体験してみて、難しいイメージの薬学に興味が持てました。子どもも『面白い』と言っていますし、私も楽しかったです。」
(薬学部志望者の保護者、徳島県から)

「高齢者の体験がしんどかった。見るだけだとわからないが、体験してみて初めてその人の気持ちがわかった。」
「説明もパワーポイントを使ったりしてわかりやすかったし、設備もいいので、頑張って勉強して入学したいと思いました。」
(看護学部志望、神戸市から)

「娘が作業療法士を志していて、オープンキャンパスは2校目ですが、(娘は)ぜひここに来たいと言っています。環境もいいし、親としてもここなら安心です。」
(リハビリテーション学部志望者の保護者、滋賀県から)

スタッフの感想

「(人工呼吸・AED体験を)みんな『面白かった』と言ってくれました。体験が終わっても、入学試験のことを在校生に聞いたり積極的な子が多いですね。私たちの頃はこんな(オープンキャンパスのような)機会はなかったのでうらやましいです。」
(看護学部教員スタッフ)

「(参加者から)入学試験のことをよく聞かれました。施設も新しくてきれいだし、この学校の良いところもわかってもらえたと思う。逆に、目標を持っている参加者を見ていると、自分も頑張ろうという気になりました。」
(リハビリテーション学部2年生)

理学療法学科の学生スタッフ

作業療法学科の学生スタッフ

広報グループコメント

今年は6回にわたってオープンキャンパスを開催いたしました。本学教員・職員・学生スタッフのみなさまのおかげで無事終了いたしました。ありがとうございました。各回ともいろいろなイベントを開催し、たくさんの受験生に来ていただくことができました。その中でも教員・学生スタッフの方が受験生たちと楽しそうに話をしているのが印象的でした。兵庫医療大学の教員と学生の仲の良さが受験生にも伝わったのではないかと思います。オープンキャンパスの各回の詳しいレポートは兵庫医療大学のホームページにも載せていますので、本誌とあわせて見ていただけるとうれしいです。

最近の主な出来事

8月 AUGUST

1	兵庫医科大学	キャンパス見学会	→P8をご覧ください
2	兵庫医科大学	医学教育ミニ・ワークショップ(2、3日)	採用3年以内の教員約25名が参加しスペースアルファ神戸において開催されました。1日目は九州大学医療系統合教育研究センターの吉田素文教授による「医学教育改革:私の受けた医学教育と今の医学教育」の講演の後、本学の教育について小グループによる問題提起と全体討論で夜遅くまで盛り上がりました。2日目は吉田教授の「九州大学の医学教育における 新しい取り組みと課題」の講演、鈴木医学教育センター長による「医師国家試験の現状について」「本学の学習支援について」の講演、成瀬准教授による「共用試験CBT問題作成ガイダンス」(問題作成とブラッシュアップ)を行いました。
	兵庫医科大学	日本呼吸器学会近畿支部主催 第9回『肺の日』記念市民公開講座 (世話人:内科学 呼吸器・RCU科 中野 孝司教授)	平成記念会館において開催され、約200人が参加しました。 講演I:「長引く咳の注意点〜咳喘息とタバコの影響について」神戸大学医学部呼吸器内科 西村 善博准教授 「から咳と間質性肺炎」NHO姫路医療センター呼吸器内科 望月 吉郎副院長 「結核と咳」大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター結核内科 高嶋 哲也副院長 「肺がんと咳」兵庫医科大学内科学 呼吸器・RCU科 福岡 和也准教授 講演II:「人間いくつになっても健康第一」桑原 征平 元・関西テレビアナウンサー/大阪芸術大学教授
4	兵庫医療大学	早期臨床実習(〜8日)	→P19をご覧ください
5	兵庫医科大学病院	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®のキャラクターたち来訪	第3会議室において、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®のウッディー・ウッドペッカー™などのキャラクターたちによるショーが行われ、入院中の子供たちが楽しいひと時をすごしました。医学部のボランティア部(WITH YOU)が主体となって開催し、今年で4回目になります。
6	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「男性更年期障害の診断と治療」をテーマに、泌尿器科 近藤 宣幸講師が第3会議室で講演を行いました 。
9	兵庫医科大学	兵庫医科大学 兵庫県推薦入学制度説明会	兵庫県立ひょうご女性交流館において実施されました。
	兵庫医療大学	オープンキャンパス(9日、10日)	→P1〜3をご覧ください
12	兵庫医科大学	第2回兵庫医科大学がんセンター講演会 共催:文部科学省がんプロフェッショナル養成プラン「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン」 後援:兵庫県、西宮市、兵庫県医師会、日本禁煙学会、神戸新聞社	3-3講義室において開催されました。医師、看護師、コメディカル、事務員等約150名が参加しました。 「タバコ規制枠組み条約の実施」シドニー大学 公衆衛生大学 Dr.Mary Assunta(メアリー・アスンタ)「禁煙治療の最新知見」メイヨークリニック ニコチン依存症センターDr.Richard Hurt(リチャード・ハート)
19	学校法人兵庫医科大学	教職員共済会主催「ビール・パーティー」	17時30分から5号館南側芝生広場で開催されました。ヨーヨー釣り・輪投げ・綿菓子の夜店コーナーや宝探しゲームなど、新企画もあり、楽しいひと時を過ごしました。
23・24	兵庫医療大学	ポートアイランド4大学オープンキャンパス	→P1〜3をご覧ください
27	兵庫医科大学	消防訓練(大学)	授業時間中に3号館2階学生ホールのごみ箱から出火したことを想定して、通報・初期消火・非難誘導の訓練を行いました。大学での訓練は平成19年から「教員による学生の避難誘導」に重点を置いて実施しています。今回は、学生が火災発見・初期消火を行い、学務部事務職員も自衛消防隊員として参加するなど、現実に近い設定で訓練を行いました。教職員、学生の約100名が参加しました。
28	兵庫医科大学	マイアミ大学短期留学 (6年生2名)(2週間)	詳細は12月号で掲載します
30	兵庫医科大学病院	平成20年度合同防災訓練 (兵庫県・西宮市)	→P16をご覧ください

9月 SEPTEMBER

3	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「頭痛について」をテーマに総合診療部 立花 久大教授が第3会議室で講演を行いました。
17	兵庫医科大学病院	市民健康講座	「胃がんになる人、ならない人」をテーマに内視鏡センター 堀 和敏講師が第3会議室で講演を行いました。
18	兵庫医科大学	学位授与式	→P9をご覧ください
	兵庫医科大学病院	事務職員接遇研修会	3-3講義室において 株式会社日本医療事務センター接遇インストラクターの一橋 真穂子氏による接遇研修が行われました。約120名が参加し、接遇の意味の理解や、挨拶や笑顔のトレーニングなどを行いました。
19	兵庫医科大学	大学院医学研究科入学試験(前期)	(10月3日合格発表)
20	兵庫医療大学	地域連携実践センター公開講座	「認知症の人の理解とケア」をテーマに、看護学部 大町 弥生教授が、「ケアの経験から学んだこと」をテーマに、在宅介護経験者が講演を行いました。
27	兵庫医療大学	第2回兵庫医療大学保護者懇談会	兵庫医療大学オクタホールにおいて開催しました。1年生127名、2年生101名、計228名の保護者の皆様が出席されました。最初に、オクタホールにおいて全体説明を行いました。全体説明の後、学部別懇談会や、希望された保護者との個別面談を実施しました。その後、学内レストランにおいて、懇親会を行いました。
29	兵庫医科大学	クロアチア駐日大使表敬訪問	→P32をご覧ください

第9回『肺の日』記念市民公開講座

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®のキャラクターたち来訪

市民健康講座「男性更年期障害の診断と治療」

第2回兵庫医科大学がんセンター講演会

教職員共済会主催「ビール・パーティー」

消防訓練(大学)

市民健康講座「胃がんになる人、ならない人」

接遇研修会

地域連携実践センター公開講座

第2回兵庫医療大学保護者懇談会

学長メッセージ

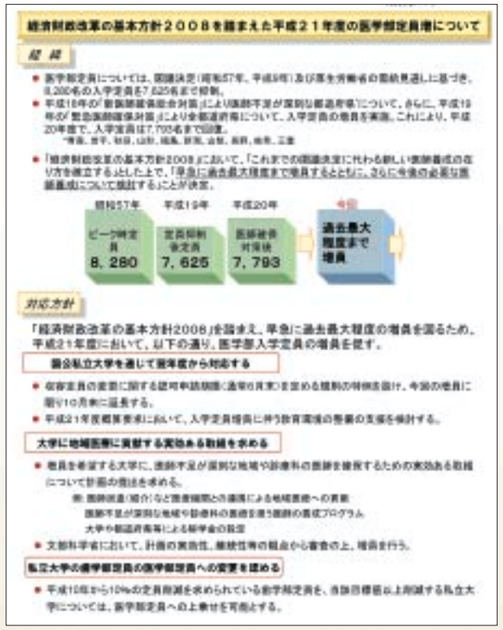
医師不足の要因と政府の対応と現状

学　長｜波田　壽一

現在、日本は深刻な医師不足を来たしていますが、何故このような状態になったのでしょうか。日本政府は1973年に人口10万人当たり150人の医師確保を目指して「1県1医科大学構想」を打ち上げ、それに取り組み、昭和57年（1982年）には全国の医学部定員が8,280名（これまでのピーク）となりましたが、この年に「医師については全体として過剰をきたさないように配慮」することが既に閣議決定されています。

昭和58年（1983年）厚生省保険局長 吉村 仁氏が「医療費亡国論」といわれる論文を発表し、これが医療費抑制の大義名分として使われ続けることになります。1985年に人口10万人あたり医師150人という目標が達成されると、一転して医師過剰を懸念。昭和61年（1986年）には医学部定員10%削減が打ち出され、平成9年（1997年）橋本内閣でも「引き続き医学部定員の削減に取り組む」と閣議決定され医師数の抑制策が続けられました。このような政策で潜在的な医師不足を来たしていましたが、平成16年（2004年）新臨床研修制度が開始され、卒業生が大学離れを起こした為、大学が関連病院からの医師引き上げを行うこととなり、医師不足を顕在化させることになりました。これに対して、平成18年（2006年）には新医師確保総合対策がとられ、比較的少ない医師数の10県に対して1県あたり最大10名、10年間医学部の定員増を認めることに政府は政策を変更し始め、さらに平成19年（2007年）には緊急医師確保対策を発表して、各県で最大5名の医学部定員増を行うことにしましたが、これでも不十分であることが分かってきたため、平成20年（2008年）1月厚労省内に「安心と希望の医療確保ビジョン会議」なるものを設け、この会議で医学部定員をピーク時の昭和57年の8,280名まで増やすことを決定し、同年6月の閣議でもこの方針が認められています。

今年8月初旬に文部科学省から最大定員120名までとして、現在各大学に対して定員増がいくらまで可能かを調査中でありますが、これに対して本学は現在の施設等を勘案した収容能力として入学定員115名（収容定員690名）、平成21年度増員の意向希望する増員数として110名（緊急医師確保対策に基づく平成21年度増員予定数を含む）として回答しています。各大学からの回答を集計して最終的に文部科学省が何名の定員増を各大学に振り分けるか、10月末までには明らかにされる予定です。このような経緯で医師不足を生じてきたわけでありますが、現在の政策で医師不足が早急に解消されるとは思えませんし、本当に日本の医療が守られるのかが心配されます。と同時に現在も続いている医療費抑制政策が変わらなければ医療環境が変わることが期待できないわけで、多忙を極めている医師たちを更に疲弊させないためにも早急な医療政策の変更が切に望まれます。



文部科学省「地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進について（概要）」から

ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン掲載「胃癌に対するD2リンパ節郭清のみと大動脈周囲リンパ節郭清併施とのランダム化比較試験」について

外科学 上部消化管外科　教授　笹子 三津留

本年7月31日号のニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン誌（NEJM）に私が主任研究者として多施設共同で（日本臨床腫瘍研究グループ、胃がん外科グループ）実施した臨床試験の結果が掲載されました。これは1980年代から90年代前半に拡大の一途をたどった胃癌に対するリンパ節郭清を科学的に評価して、従来からの標準であるD2郭清に大動脈周囲リンパ節郭清を追加することの意義を見極める目的で実施されました。

癌の治療は病巣を含めた局所の治療と転移や微小な転移を攻撃する全身治療とから成りたっていますが、胃癌では手術あるいは放射線治療による局所リンパ節転移のコントロールが不可欠である事が分かっています。転移が存在したらほとんど治癒できない他の遠隔転移とは異なり、大動脈周囲リンパ節転移は転移があっても摘出することで2-3割の患者さんは治癒します。しかし、本当に同部の郭清が予後を改善するかは不明でした。1995年から全国24施設で523名の患者さんに参加の同意をいただき、手術中に拡大手術をしても妥当である条件をクリアーした患者さんは試験の事務局に登録され、無作為に割り付けられたD2郭清だけの手術かD2郭清に大動脈周囲リンパ節郭清まで追加する手術を受けていただきました。登録終了から5年経過し、生存率において両群には全く治療成績に差がないことが判明しました。拡大手術では標準手術より手術時間が1時間長くなり、出血量が230ml増えること、一部の軽度合併症が増加することもあり、予後を改善しない以上行うべきではないことが分かりました。

日本発のエビデンスとして世界で最も読まれている医学会誌であるNEJMに掲載されたことは大変な名誉ですが、この論文が掲載されたことは画期的なことと言えます。まず米国で稀な胃癌に関する論文であったこと、読者の大半には興味が薄い純粋な外科手術に関する論文であったこと、この試験で標準としたD2郭清は米国では標準手術ではないこと、を考えると掲載率の極めて低いNEJMがよく掲載してくれたと思います。

私は臨床一筋に邁進してきました。臨床を大切にしたいがゆえに臨床研究も積極的に取り組んできました。この研究により胃がん治療のガイドラインが変わりました。こういう研究をできたことを誇りに思います。今後も臨床を変えていくのは多くの場合、この様な臨床試験であり、その重要性は益々認識されています。そのためには問題意識と現状理解を共有できる多くの仲間が必要で、JCOG胃がん外科グループの皆様に深く感謝しています。研究の評価は内容で決まるものであり、インパクトファクターで決まる訳ではありませんが、NEJMのインパクトファクター52点はNatureの約2倍です。臨床研究が高い評価を得る時代が来たことを心より嬉しく思います。

早期臨床体験実習を行いました

平成20年7月25日から7月29日まで第1学年次が早期臨床体験実習Iを行いました。医療の現場を体験することによって、入院患者の生活や看護業務の現状を知り、医学生としての自覚を培い、勉学のモチベーションを高めることを目的とするものです。また、7月29日から7月31日まで、本年度から開始した関西学院大学との学術交流の一環として、1年生～4年生の関西学院大学の学生が本学に来て、早期臨床体験実習を行いました。医療に対する認識を深め、勉学のモチベーションを高めることを目的とするものです。

それぞれ、第1日目のオリエンテーションの後、2日間、病棟で実習を行いました。各病棟の看護師長（主任）及び中堅看護師が指導担当者となり、指導担当者1名が3名ずつ（関学は2名）受け持つ方式で、入院患者の生活状況、病棟スタッフの患者や家族への対応、病棟スタッフの職種別の役割、医師と看護師の役割と強調の必要性、看護業務と他職種との連携などを理解・学習しました。グループ別発表会（兵庫医科大学は7月30日、関西学院大学は8月1日）では、それぞれが体験したことを報告しました。

兵庫医科大学

関西学院大学

感 想

- 看護師の業務量がとても多く、大変であることを身をもって知ることができた。
- 気がつきにくい患者さんの変化を、看護師は見逃さず感心した。
- 患者さんの自立を促すケアの仕方に感心した。
- 医師と看護師、コメディカル等の連携がよく、ナースステーションの雰囲気がとてもよかった。
- 重篤患者の看護では、特に情報共有の重要性を実感した。
- 白衣を着て実際に患者さんと接することで、「頼られている」という責任感を感じた。
- 医療への心構えを新たにするきっかけになった。
- 患者さんの立場になって考えられる、看護師やコメディカル、他科の医師とも連携のとれる医師になりたい。

実習を選択した理由

- 身近な人、また自分自身の入院経験から興味があったから。
- 民事訴訟法で医療に触れて。
- 将来医療ソーシャルワーカーを目指している。視野を広げたい。

感 想

- 患者さんへの親身な接し方に感動した。
- 患者さんをよく看ることが大切だと思った。
- 精神面のケアもとても大切にしていることを知った。
- “ SWEET ”が存在していた。
- ダブルチェックの徹底など、業務の厳しさを学んだ。
- 細やかな心配り、チームの連携、正しい知識を備えることが大切だと学んだ。
- 医師、看護師、コメディカルだけでは補えない部分を支えられる医療ソーシャルワーカーになりたい。

平成20年度キャンパス見学会開催

8月1日午後1時から、3号館4階3-3講義室を中心に、平成20年度キャンパス見学会を開催しました。今年は、高校1・2年生の参加が多く、179組265名の生徒・保護者が参加されました。

見学会では、村田入試センター長の入試概要説明に続き、服部臨床教授による模擬講義「生命を守る予防とは」が行われ、「私達への誠意が伝わってくるお言葉があり、感動しました」「もっとたくさんのことを聞きたかった」などの感想が多く寄せられました。

その後の学内見学では、「在校生との交流コーナーがとてもためになった」「電顕室やスキルスラボでの体験が楽しかった」「入りたいと思ったので勉強を頑張ります」などの感想がありました。

ドクターズカーの見学

スキルスラボ：人体解剖・目の構造などの模型の展示

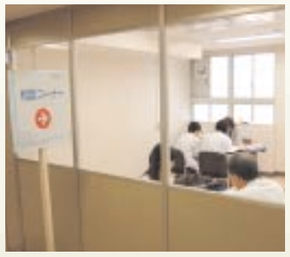
スキルラボ：小児医療教育シュミレーター

内 容

- 入試概要説明（入試センター　村田宏雄試センター長）
- 模擬講義「生命を守る予防とは」（小児科学　服部益治臨床教授）
- 相談コーナー（入試、学生生活、奨学金、その他）
- 在校生との交流コーナー
- キャンパス見学
- スキルスラボ（医学教育シミュレーター展示・体験コーナー）

在学生との交流コーナー

スキルスラボ：高齢者体験・眼底シミュレーター


相談コーナー

小児科学　服部臨床教授による模擬講義

学位の授与

外科系　**平田　淳一**

学位論文名　甲第514号（H19.3.31）

A role for IL-18 in Human Neutrophil Apoptosis
ヒト好中球アポトーシスにおけるIL-18の役割

歯科口腔外科学　**前田　常成**

学位論文名　乙第308号（H20.7.3）

Establishment of a nude mouse transplantable model of a human malignant fibrous histiocytoma of the mandible with high metastatic potential to the lung
高肺転移能を有するヒト下顎悪性線維性組織球腫のヌードマウス可移植モデルの樹立

平成20年度西日本医科学生総合体育大会（西医体）など夏の大会結果報告

この夏、西日本医科学生総合体育大会（7月31日～8月15日）、全日本医科学生体育大会王座決定戦（8月13日～24日）、全日本医科学生アーチェリー大会（8月6日～8日）等が開催され、本学の各部からも個人・団体で参戦し、奮闘しました。（右頁に結果一覧）。

西医体を終えて

第60回西日本医科学生総合体育大会
評議委員　第4学年次　津田賀　俊

本年度、主管の広島大学と兵庫医科大学との橋渡し役として、評議員をさせて頂きました。私自身、至らぬ点も多々あり、教務学生課や各部の方々にはご迷惑をおかけしたと思いますが、各競技におきましては、大事に至ることなく、この度、結果を報告させていただくまでとなりました。ありがとうございました。

さて、西医体では、参加競技だけでなく、練習環境、大学の立地環境やカリキュラム等、一つとして同じでない、西日本にある44校から選ばれし精鋭たちが、一つの目標に向かって広島に集う。これはまさに、医学生のオリンピックであると言っても過言ではないと思います。そしてその結果がたとえ芳しくなくても、大会に向けて切磋琢磨したという姿勢から、私たちが学ぶことは、決して教科書では学ぶことのできないかけがえのないものであると確信しております。まさにエチュルバート・タルボットが言ったように。

学生たちは、西医体での更なる高みを目指して、決して現状に満足することなく、日々部活動に励んでおります。そしてこれらの部活動は、顧問の先生をはじめとする、多くの方々のご協力なくして、出来るものではございません。これらの部活動に、今後ともいっそうのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

クラブ名	種目・部門	順位	備考
アーチェリー部（全日本医科学生アーチェリー大会）	シングルラウンド男子団体	準優勝	（5年）福田　雄一
			（4年）布施　慎也
			（3年）内橋　孝史
	シングルラウンド男子個人	3位	（5年）福田　雄一
		4位	（3年）内橋　孝史
		8位	（4年）布施　慎也
	シングルラウンド女子個人	3位	（4年）馬場口　由佳
	ハーフラウンド男子	優勝	（2年）和田　吉弘
	ハーフラウンド女子	優勝	（2年）本田　晶子
	グリーンラウンド男子	優勝	（1年）志村　雄飛
	グリーンラウンド女子	準優勝	（1年）田所　麗
合気道部	個人の部	準優勝	（4年）横山　弘
			（3年）中道　徹
剣道部	男子団体戦	予選落ち	
	女子団体戦	予選落ち	
	男子個人戦	2回戦進出	（6年）佐野　圭吾
		3回戦進出	（5年）高橋　怜嗣
	女子個人戦	ベスト32	（4年）香山　尚美
		ベスト32	（4年）八木　沙織
		2回戦進出	（6年）吉岡　奈美
	男子新人戦	2回戦進出	（4年）西井　謙夫
		3回戦進出	（3年）渡邊 高志
硬式庭球部	男子団体戦	2回戦進出	
	女子団体戦	初戦敗退	
ゴルフ部	団体の部	24位	
サッカー部	男子団体戦	初戦敗退	
柔道部（全医体）	男子団体戦	予選落ち	
	女子個人戦	3位	（6年）市橋　真理子
		ベスト16	（5年）石田　理紗
		初戦敗退	（2年）益子　沙友里
		初戦敗退	（1年）内田　啓子
	女子個人戦	2位	（6年）市橋　真理子
準硬式野球部	男子団体戦	初戦敗退	
卓球部	男子団体戦	初戦敗退	
	女子団体戦	初戦敗退	
軟式庭球部	男子団体戦	初戦敗退	
	女子団体戦	初戦敗退	
	男子個人戦ダブルス	3回戦進出	（5年）吉水　祥一
			（5年）永尾　祐介
		3回戦進出	（5年）勝山　晋亮
			（5年）花咲　毅
	女子個人戦ダブルス	ベスト32	（5年）渡邊　優子
			（3年）今本　千絵
バスケットボール部	男子団体戦	初戦敗退	
	女子団体戦	初戦敗退	
バドミントン部（全医体）	男子団体戦	ベスト8	
	男子個人ダブルス	ベスト8	（4年）上村　尚
			（4年）中村　晃史
		ベスト32	（4年）遠藤　悠紀
			（4年）横山　雄一
	女子個人ダブルス	ベスト16	（3年）細羽　梨花
			（3年）沢辺　潤子
	男子団体戦	4位	
バレーボール部	男子団体戦	初戦敗退	
	女子団体戦	ベスト16	
ヨット部（全医体）	団体（国際470級）	7位	
	団体（スナイプ級）	10位	
	団体（国際470級）	6位	
ラグビー部	男子団体戦	初戦敗退	

※陸上競技部・水泳同好会は本年度西医体に不参加。

結果一覧

アーチェリー部

剣道部（女子）

剣道部（男子）

硬式庭球部（女子）

硬式庭球部（男子）

ゴルフ部

サッカー部

柔道部（女子）

軟式庭球部

柔道部（男子）

バレーボール部（男子）

バドミントン部

バレーボール部（女子）

ヨット部

ラグビー部

クロアチア・リエカ大学と交換留学が行われました

6月30日～7月25日、本学とクロアチア・リエカ大学で交換留学が行われました。第5学年次の石田 理紗さん、笹沼 ちか子さん、桝田 智仁さんの3名が、リエカ大学の海洋医学、整形外科、産科婦人科で学び、8月29日に学内報告会が行われました。リエカ大学医学部からはTomislav Cengicさん、Marko Buljanさん、Lana Knezevicさんの3名が来日し、救命救急センター、外科、産科婦人科で実習を行いました。

（P32に関連記事あり）

石田　理紗さん（海洋医学）

兵庫医科大学のご尽力によりリエカ大学に留学させていただき、海洋医学を学びました。地中海の海水・気候を利用した自然療法を取り入れて予防医学やリハビリを行っているThalassotherapia病院で三週間実習し、残りの一週間はリエカ大学の学生と共にダイビング医学研修に参加しました。特に印象的だったのは、綺麗な海に恵まれていることです。綺麗な海を求めて、海外から療養に来ている患者さんが多いことに驚きました。内科治療のみを行う病院なので手術を見学することはありませんでしたが、患者さんの手術痕から丁寧さより速さを重視するのが覗えました。実際、一緒に留学した他の二人は手術の速さに驚いたと言っていました。日本とクロアチアは、気温・物価も同じくらいで、医学部制度や近年の女性医師増加など共通することも沢山ありました。言語や習慣の違いを感じたり、温かい歓迎を受けたり、病院実習だけでなくクロアチアでの生活そのものが思い出深いものとなりました。海外の医学を間近で見るという、とても貴重な機会を与えてくださいましたことに感謝致します。

帰国時には「さよなら、りさ」の見出しで地元雑誌に掲載

笹沼　ちか子さん（整形外科）

出発前に整形外科の先生にアドバイスいただいたとおり、整形外科の教科書を英訳して勉強していったことがとても役にたちました。手術見学の時、解剖や症状などについて質問されたり、レントゲン所見を述べるよう求められたりしましたが、積極的に答えることができました。実習をおこなった整形外科病院はロブランという田舎町（人口3000人ほど）にあり、約120床でCTやMRIはなく、手術室が4室ありました。30人ほどいる整形外科医はすべて男性で、女性が整形外科医を目指すことをとても珍しがられました。手術は日本の約半分の時間で行われ、その速さに驚きました。今回、日本の医療の繊細さ、英語の重要性を再認識できました。このような機会を与えてくださり、ご支援いただきました兵庫医科大学、リエカ大学の先生方、その他関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

桝田　智仁さん（産科婦人科）

1週目は不妊治療を、2週目は産科を、3週目は手術部を、4週目は新生児治療を見学しました。先生方は教育熱心で、とても良くして頂きました。貴重な体験ができとても勉強になりました。休日には、世界遺産に認定されている、美しい街並みで有名なドブロブニクやローマ時代に建築された円形球技場があるプーラなどに行きました。今回の経験をこれからの人生に生かせるように、勉学に励みます。

新家理事長、波田学長、香山教授、鈴木教授をはじめ関係者の方々に深く感謝いたします。

地元紙に掲載されました!

リエカ大学学生にインタビュー（最終日送別会にて）　通訳：古瀬講師

Tomislav Cengicさん（救命救急センター）

先進的な技術を学びたくて来ましたが、期待以上でした。リエカのERでは初期処置だけを行いますが、日本のトータルケアの実践を見ることができました。また、日本の医療では、全てにおいて機械化が進んでいると思いました。しかし、患者さんと医師、学生と医師とのコミュニケーションの取りかたは、日本とクロアチアで共通していると感じました。

日本の生活も素晴らしく、文化、伝統を大切にしていることに感銘を受けました。来日前から楽しみにしていた富士山登頂も叶い、日の出も見られて感動しました。教授・医局の方々は丁寧にご指導くださり、感謝しています。いつか、研究者として、一緒に働きたいと思います。しかし、日本の方が長時間働くことに驚きました。クロアチアでの勤務は8時―4時が普通ですが、日本では、8時―5時、更にその後も…。それを考えると、日本で働くのは難しいかもしれません（笑）。

理事長室にて

PETセンター見学

Marko Buljanさん（外科）

先生方に親切にご指導いただき、感謝しています。また、看護師の皆さんにも親切にしていただきました。日本人とクロアチア人は、見た目は違うけれど、人間としての本質は同じだと感じました。日本人の、いい意味で、仕事優先であるところを尊敬しています。

Lana Knezevicさん（産科婦人科）

少し体調を崩した時、皆さんが心配して大変よくしてくれました。先生方は熱心にご指導くださり感謝しています。大阪にあるクリニックを見学する機会もあり、よい経験ができました。

前列左から3人目がTomislav、Lana、波田学長、Marko

病院長メッセージ

外科再編のねらい

病院長｜山村　武平

ご存知のように、この4月から大学では従来の「第一外科」「第二外科」といういわゆるナンバー外科の講座が、「外科学講座」という大枠に包括されその中の部門として、「肝・胆・膵外科」「小児外科」「上部消化管外科」「下部消化管外科」「乳腺・内分泌外科」という5部門に改編されました。病院でもこれに応じ、この9月から同様の診療体制を整え新体制のもと、外来では、患者さんが混乱しないよう受付は一箇所とし、「肝・胆・膵」「上部消化管」「下部消化管」を纏めて「消化器・一般外科」と表示し、担当医の専門領域をあわせて示すことにしました。これに「乳腺・内分泌外科」「小児外科」を加え、外来の診療を行います。入院病床のほうは最近の実績から各部門のベッド数を決め、医局の部屋や当直体制は現状のままスタートしました。

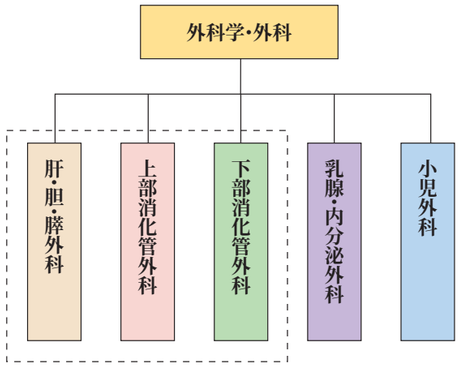
振り返って病院が開設された1972年当時、第一外科・第二外科の初代外科教授の岡本、伊藤両先生は1960年前後の「何でも外科」の時代に腕を磨かれ、それこそ頭のてっぺんから足の先まで外科的知識や技術を幅広く習得されていましたので、どちらの外科にも消化器外科領域は勿論、頭頚部から胸部、乳腺内分泌、さらに一部泌尿器や婦人科にわたる多数の領域までの患者さんの受け皿として広い紹介患者があり、診療をしていました。

丁度その頃から外科領域では研究や診療面での種々の発展により、専門分野がより深く細分化され始めました。1962年に胃癌研究会、64年に小児外科学会、65年に食道癌研究会と脳神経外科学会、67年に大腸肛門病学会、68年には消化器外科学会がそれぞれ専門分化する中で、第一外科は当時「一般外科医」のメスが躊躇する肝臓外科に果敢に挑戦し、その後日本でも屈指の肝臓外科の砦を築きました。第二外科は胃癌や膵臓癌の手術数が西日本では有数の施設でしたが、その後、伊藤先生の後任として就任された宇都宮先生は大腸肛門外科の新しい知識と技術を持ち込み、さらにそれを発展改良した結果、日本各地から大勢の外科医が肛門温存手術を学びに来る程の活況を呈しました。このような流れから、つい最近まで一外、二外それぞれに「肝・胆・膵」「消化管（下部）」というメインの専門領域があるものの、依然として乳腺・内分泌外科や小児外科、一般外科を両者とも続けていました。

しかし、前述した各学会が研究・診療面でさらなる進化発展する中で、1991年に乳癌学会が96年には肝胆膵外科学会が設立され、各疾患に関する情報も著しく増加し、患者さんもインターネット等でそれらの詳細な情報に接するようになり、より専門的な診療と臨床成績を求め、より良い施設を選択する傾向が明らかになっています。この傾向に素早く対応するために「上部消化管外科」「乳腺・内分泌外科」「小児外科」に強力な人材を確保・補強して、まず患者さんを呼び集め、さらにこの方面の専門医を目指す若い医師を新しい「外科」で育てながら活気あふれる兵庫医科大学病院にしようという目論みです。ですから、この「外科」という組織の中では、研修医、病院助手クラスの医師は各部門共通の外科医として、一定期間それぞれの部門で自由に専門知識や技術を学びながら、助教になる時点で自分の専門分野を選択するという「新しい試み」を是非早急に実現して欲しいものです。この夏の暑き戦い、「北京の五輪」は終わりましたが、兵庫医大の「外科」の五つの輪（部門）は始まったばかりです。この五つの輪が特色を生かしつつ一つの輪「外科」として光り輝く時、（それは遠くないと信じていますが、）大学も、病院も大いに発展するに違いありません。どうぞ皆様、大きな目で今後の「外科」を見守っていただくとともに、これまで以上のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

外科再編 ～より専門的で質の高い医療の実践を目指して～

【外科学・外科部門組織図】



9月1日からこれまでの第一外科、第二外科を、「肝・胆・膵外科」「上部消化管外科」「下部消化管外科」「乳腺・内分泌外科」「小児外科」の5部門に改編し、新体制をスタートしました。より専門的で質の高い医療の実践と、円滑な地域医療機関との連携を目指します。

【外来体制】

患者さん混乱のないように、受付は一カ所とし、
○消化器・一般外科
○小児外科
○乳腺・内分泌外科
として表示しています。

肝・胆・膵外科

診療部長　藤元 治朗

当科は肝胆膵・移植・内視鏡外科に積極的に取り組む全国でも有数の施設です。
肝：原発性肝癌肝切除は1,000件を超え、胆管癌・転移性肝癌も多くの実績を残しています。新開発の肝切シミュレーションシステムを駆使し、安全かつ根治的な肝切除を実施中で、また低侵襲の腹腔鏡肝切除も常に行っています。
胆：腹腔鏡下胆摘術も1,000例を超え、通常より創の少ない3孔式で実施中で、高度炎症例・既開腹歴症例に対しても安全に行っています。
胆道・膵臓・十二指腸の腫瘍に対しても、一般には手術が困難と考えられる肝門部胆管癌や血管浸潤のある膵臓癌の方でも、肝切除や血管手術経験を活かした高度技能手術により良好な成績が得られています。また良性膵腫瘍に対して腹腔鏡補助手術も行っています。様々な内視鏡外科手術、さらに肝硬変・劇症肝炎・肝癌に対する肝移植も行っており、体に優しい低侵襲手術から高度の先進技術手術まで幅広く要望にお応えしたく存じます。

上部消化管外科

診療部長　笹子 三津留

胃癌の専門家としての豊富な経験と高度な技量を評価いただき国立がんセンター中央病院から赴任して参りました。上部消化管外科において、食道・胃・十二指腸疾患を担当しますが、悪性疾患が中心となります。最先端の研究的医療と最良の手術の提供は互いに矛盾するものではなく、最高の技術があるからこそ最先端の医療も安全に行えます。日本発のエビデンス「噴門癌に対する開胸手術は行うべきでない」など、最先端の研究成果は日常臨床に的確に反映させています。現在毎月10-18例の胃がん手術を行い、上部消化管内科と緊密な連携をとりつつ、個々の患者さんに応じた最良の手段で（内視鏡的切除、開腹手術、化学療法など）治療を提供し、時には両科の力を集結して治療に当たっています。最先端の機能温存手術は当科の得意分野で、遠く四国からも患者さんが受診されるようになりました。臨床教育も充実させながら、最先端の最適医療を提供していきます。

下部消化管外科

診療部長　冨田 尚裕

下部消化管外科は、小腸・大腸・肛門の良性および悪性の様々な疾患を扱っており、年間500例前後の手術を行っています。当科は、炎症性腸疾患（IBD）グループと大腸癌グループの二つのグループから成っています。炎症性腸疾患グループは、潰瘍性大腸炎とクローン病を主に扱い、特に、難易度の高い潰瘍性大腸炎の手術に関しては全国1位の手術件数で、昨年末には累計1,000例に達しました。一方、大腸癌グループでは主に大腸癌を対象に、これも全国トップレベルの治療成績を有していますが、特に、直腸癌における肛門温存手術、肝転移を含めた進行・再発大腸癌に対する手術と化学療法による集学的治療に精力的に取り組んでいます。また全国規模の多施設共同臨床試験にも多く参画し、将来の大腸癌治療の進歩のためのエビデンス構築にも力を入れています。伝統的に家族性大腸腺腫症の症例数も多く、人工肛門造設を伴わない一期的な大腸全摘手術を行っています。このように炎症性腸疾患と大腸癌の両者を専門的に扱っている施設は、全国的にも希少であり、それが当科の特徴ともなっています。

乳腺・内分泌外科

診療部長　三好 康雄

当科では乳がんを中心に、診断から手術さらにはホルモン療法や化学療法（抗がん剤治療）による幅広い診療を行っています。乳がんは、しばしばマンモグラフィーによる石灰化によって発見される場合があります。石灰化しかない段階では、確定診断のためステレオガイド下での針生検（マンモトーム）が不可欠ですが、当院ではその装置を有しています。さらにセンチネルリンパ節（がんが最初に転移するリンパ節）生検術を行い、転移のない場合には腋窩リンパ節の郭清術を省略することによって上腕の機能を温存しています。また、乳房の術後の整容性を保つために、形成外科と共同で乳がんの手術と同時に乳房再建術を行う一期再建術にも対応できる体制を整えています。術中にリンパ節転移の有無や乳がんの切除が適切に行われたかどうか、病院病理部による術中迅速診断を行い、術後には放射線科と連携して放射線治療を行っています。また再発予防を目的にホルモン療法や通院による化学療法も行っています。このように乳がんの診断から手術、術後療法まで幅広く対応できる診療体制を整えております。よろしくお願いいたします。

小児外科

診療部長　奥山 宏臣

新生児から15歳までの小児を対象とした外科診療を担当しています。鼠径ヘルニア・臍ヘルニアなどのヘルニア関連疾患、痔瘻・肛門周囲膿瘍などの肛門疾患、嘔吐・便秘などの消化器疾患といった日常よくみられる疾患から、急性虫垂炎、腸重積症、異物誤飲といった救急疾患の診療も行っています。また新生児科との連携により、食道閉鎖症、腸閉鎖症、横隔膜ヘルニア、直腸肛門奇形といった新生児外科疾患の診療も行っています。最近ではこうした外科疾患の出生前診断にも取り組み、適切な周産期管理が行えるように産科や新生児科と協力体制をとっています。乳児期から幼児期にかけては、小児がん、胆道閉鎖症、胆道拡張症、ヒルシュスプルング病といった専門性を要する疾患の診療も小児科と連携して行っています。こうした腹部疾患だけでなく、漏斗胸や先天性嚢胞性肺疾患といった胸部疾患に対する手術も行っています。また最近では、成人外科とも連携して鏡視下手術を積極的に取り入れ、体に負担の少ない小児外科を目指しています。

人間ドック等の健診事業を開始します

当院は、本年11月から1号館13階（旧西病棟）に健診センターを設置し、人間ドック等の健診事業を開始します。これにより、生活習慣病の予防や心臓・脳血管疾患、がんの早期発見など健康増進・予防医療の観点から当院各診療科（部）との緊密な連携のもと、より質の高い総合的な健診を行います。

健診の実施日等は次のとおりです。

○健診日：月曜日、木曜日

○健診時間：午前8時15分～午後2時頃

※健診はすべて予約制です。健診をご希望の方は下記までご連絡をお願いします。

○受付時間：月曜～金曜　午後1時～4時

○電話：0798-45-6132　FAX：0798-45-6918　（健診センター直通）

※ご来院のうえご予約される場合は、1号館3階の採血室内

『人間ドック予約受付係』まで

（病院事務部）

院外処方せんの全面発行について

当院は、厚生労働省の施策である医薬分業を推進するため、本年12月から院外処方せんの全面発行を行います。そのため、従来、1号館1階総合案内で実施しておりました院外処方に係る相談業務やFAX送信サービスについて、9月から同フロアーの薬剤カウンターに「院外処方せん・FAXコーナー」を新設し、同コーナーに担当薬剤師、事務員を配置し、12月の院外処方せん全面発行に向け院外処方の相談、院外処方せんのFAX送信サービス等を行っております。

（病院事務部）

検査体制が変わりました

臨床検査部の検体検査部門（血液検査、生化学検査、免疫検査、尿一般検査）は、6年間続いたブランチラボ体制を改め平成18年10月より病院職員を中心とした「自主的」運営となりました。「自主的」運営では検査技術の蓄積がブランチ体制により途切れてしまったのを補うためSRLラボクリエートから技師派遣を受け検査を行ってまいりましたが、平成20年9月1日より本学職員技師のみによる「完全自主」運営検査室に変更いたしました。この「完全自主」運営体制では臨床検査部が行うすべての検査を本学職員が担当するため、診療側からの要望に対し病院職員としての立場から柔軟かつ確実にお応えでき、またすべてのチーム医療に対して臨床検査部技師がその一員として貢献することが可能となりました。さらに技師教育においても臨床検査部所属の技師全員に検体検査、生理検査、微生物検査の技術や知識を習得する機会が与えられ、それにより広い視野をもった検査技師の育成ができるようになりました。今後の臨床検査部にご期待いただくとともに、より一層のご指導を賜りますようお願いいたします。

（臨床検査部）

株式会社エイチ・アイから車椅子入浴装置が寄贈されました

本学の100%出資事業会社である株式会社エイチ・アイから、兵庫医科大学病院にコンパクト車椅子入浴装置「シャトル」一式が寄贈され、平成20年9月3日、10号館4階病棟浴室において寄贈式が行われました。看護部から強い要望があり、平成19年には階段避難用車椅子が寄贈されました。

「シャトル」では、両脚を伸ばしてゆったりと入浴できます。車椅子の乗り降りがスムーズで、背もたれと座面の角度を保ったまま、座面ごと後ろに倒れる「チルト」機構により、座り心地がよく安定した姿勢での入浴が可能です。また、浴槽の高さも介助者の姿勢が楽な設計となっています。全温度管理システムも搭載されており、患者さんに安全で快適にご入浴いただけます。

右から（株）エイチ・アイ　飯田社長、山村病院長
奥右から看護部　山田部長、横井師長、西坂次長

車椅子入浴装置「シャトル」

平成20年度合同防災訓練に参加しました

「防災の日」（9月1日）を前に、8月30日午前10時から、兵庫県と7市1町による合同防災訓練（主催：兵庫県、阪神広域行政圏協議会、西宮市）が西宮市の甲子園浜で行われました。警察、消防、自衛隊、ガス、電気、電話会社、地元住民など約80機関の計約2,000人が参加する中、本学から吉永教授、久保山講師をはじめ、救命救急センタースタッフとDMAT登録隊員（医師、看護師、薬剤師、事務員）、傷病者・搬送・家族役として医学部学生54名が参加しました。

訓練は南海地震（和歌山県沖でマグニチュード8.4）が発生、阪神間で震度6弱の強い揺れが観測され、津波警報の発令と共に、建物の倒壊や火災が発生、死傷者が生じたとの想定で行われ、会場に設置された応急救護所でトリアージや模擬診療が行われました。

当日はあいにくの雨でしたが、参加者たちは懸命に訓練に取り組みました。

担架搬送をする学生たち

トリアージを行う橋本医師、千島看護師

学生たちに確認をする久保山講師（中央）

指揮を取る吉永教授

倒壊家屋の中で人命救助を行うDMAT山田医師

篠山病院再生に向けて

篠山病院再生委員会　委員長｜太城　力良

赤字を脱却できず法人経営の負担となっている兵庫医科大学篠山病院を存続させる意見は教授会では少数派でしたが、「社会の公器」として篠山病院を地域総合医療のメッカにしたいという理事長の熱いミッションと自治体との粘り強い交渉が経営的に存続可能な環境を整えてくれました。篠山市との協定締結までの経緯・協定の内容および新家理事長の再生のための基本コンセプトは既に広報8月号に特集として掲載されています。今からは、大幅な経営改善に向けた取り組みを行い、病院新築の推進に着手して、篠山病院が本学の建学の精神・理念に沿った施設として役割を果たせる体制を構築しなければなりません。これには、篠山病院の職員だけでなく法人全職員の協力が必要で、特に兵庫医科大学病院との連携・調整により計画を進める必要があります。このために一定期間の緊急対応型の理事長直轄の組織として篠山病院再生委員会を設置することになり、メンバーは協定の策定に関わってきたものに加えて西宮・篠山両病院からのメンバーを加えて発足しました。この委員会の役割は、(1)篠山病院の経営改善のための施策の検討(2)地域のニーズを踏まえた篠山病院の診療体制などの運営内容の検討(3)篠山病院の基盤安定のための人材確保対策、人事制度の検討(4)篠山病院の新築計画の検討(5)自治体、関係機関などとの折衝・協議です。そして、これを具現化する5つの分科会を設置しています(下図)。

篠山病院の経営改善・再生には県主導の地域医療機関との役割分担・連携、市民参加型のチーム医療、医師・看護師マンパワーの確保など多くの課題の解決が必須です。兵庫医科大学病院と提携・共同することにより、篠山病院が専門科の集合体的な大学病院の縮小版ではなく地域医療・家庭医療に特化した病院となり、丹波篠山地域の医療に貢献するだけでなく全国の地域医療を支える医療従事者の養成施設として機能できるように皆様方のご理解・ご協力をお願いします。

分科会の役割

分科会名	役　　割
運営分科会	①篠山病院の経営改善計画・施策に関すること ②運営に関する規則・制度の見直しに関すること ③地域連携、患者サービスに関すること
診療分科会	①篠山病院の診療体制・診療科の見直しに関すること ②医師確保のための派遣ルールに関すること ③診療に必要な医療機器等の選定に関すること
人事分科会	①医師の手当に関すること ②看護師等の人材確保対策に関すること ③組織改革に関すること
病院新築分科会	①新病院建築計画の立案に関すること ②建築のための許認可取得にかかる各種調整及び事業者の選定・折衝に関すること
外交分科会	①兵庫県、篠山市との協定書に基づく諸条件の検討・折衝に関すること ②医師会等地元関係団体、マスコミ等の対応、交流に関すること

学長メッセージ

兵庫医療大学の目指すところ

学　長｜松田　暉

兵庫医療大学も開学2年目を迎え、学生も総勢700人を超えて大学に活気が漲るようになってきました。完成年度を目指して着実な歩みを進めるとともに、時代の流れに敏感に対応しながら特徴ある大学作りも目指さなければなりません。以下、大学としての取り組みを紹介しながら今後の抱負を述べたいと思います。

ボーダレスなチーム医療教育

我々の掲げる二つのキーワード、ボーダレスな教育環境とチーム医療、は兵庫医療大学の特長であります。3学部混成グループでのチュートリアル教育や兵庫医科大学病院での早期臨床体験実習も、2年目に入って教員や学生の理解と協力も進み、成果を上げつつあります。しかし通り一遍のものではなく、今後は内容が問われてきます。今年度は兵庫医科大学内に「医学・医療教育研修センター」が設置されますが、これを基盤に医学部との連携が強化されるものと期待しています。

入試広報

入試も3年目を迎えていますがこれまでの所は受験生確保、入学定員確保の点では幸い乗り切ってきました。しかし、競合大学も多く、まだ認知度が充分でないということで、3年目が正念場であります。広報とも連携しますが、兵庫医療大学が兵庫医科大学の姉妹大学であり、薬学部を持った医療系総合大学であることを、ホームページなどを利用してもっと発信していきたいと思っています。

薬学部

薬学部は厳しい競争の中で生き抜いていかねばなりませんが、臨床教育に強いという我々の特徴、アドバンテージを最大限に活用していけば、社会は自ずと理解していってくれると思います。薬学部は今年から指定校推薦枠や一般入試枠の選択肢も増やし、より優れた学生の確保を目指しています。かかる意味からも、兵庫医科大学と連携し、我々の特徴を知ってもらうことがこれから重要となってきます。

特徴あるカリキュラムと教育

教育は当然ながら指定されたカリキュラムに沿って進めますが、その中で少し自由度を持たせ、視野を広げ、モチベーションを高め、楽しい学生生活を送ってもらえるよう考えるのが私の仕事でもあります。医療現場で長らく働いてきたものとして、現場を見ながら自分の将来像を描き、目的を持って勉強してほしいと思うからです。

一方、本学としてはやはり国試対策は重要であり、普段からそれを意識した教育も必要であります。薬学部ではOSCEやCBTなどがその前にあることも踏まえ、段階的な取り組みも始めています。

最後に

念願の体育館の工事も始まって本年度中に何とか使用開始できるよう工事関係者にお願いしています。体育館が出来れば学生諸君の元気さも上がるでしょうし、キャンパスとして大きく発展することになります。また、学生会もでき、10月11,12日には大学祭(海梟祭(かいきょうさい))が開催され、2年目とはいえ今年は大学としてさらに充実していくものと期待しています。今後とも皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

兵庫医療大学における平成20年度早期臨床体験実習（ECE）

兵庫医療大学共通教育センター　末廣　謙

兵庫医療大学の早期臨床体験実習（ECE）は薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の第一学年次全学生を対象として平成20年8月4日～8月8日の5日間、兵庫医科大学関係各位のご協力の下、兵庫医科大学病院において実施されました。

この教育企画は第一学年入学早期において医療の実際に直接触れ医療者としての自覚を培い、勉学のモチベーションを高めることを目的と致しておりますが、本大学の特徴として、3学部学生が混合グループを編成し合同で実施された点が挙げられます。本学における教育のキーワードは現代医療の中心でもある「チーム医療」で、すぐれた医療専門職者を育成するためにボーダーレスな教育の実施を目指しており、このECEはまさにこの実践であったと思います。

実習は3学部学生を混成で4～5名の小グループに編成し、第一日目は病院概要の説明と薬剤部およびリハビリテーション部の見学、第二日目に20の病棟に分かれて配属され、担当頂いた看護師とマンツーマンで一日の病棟業務を体験しました。さらに実習終了後の8月11日には、神戸キャンパスにおいてグループ毎にECEを通して学んだ内容に関する発表会を開催しました。発表会の内容から、学生たちは医療専門職者になるための心構えやチーム医療の重要性などを体得し、座学では学ぶことができない貴重な体験の機会を得たことが推察されます。薬学部学生にとってはこれからの6年間、看護学部およびリハビリテーション学部学生では今後4年間の勉学の方向性を明確にする大変有意義なものであったと確信しております。

ご協力を頂きました兵庫医科大学病院の看護部、薬剤部、リハビリテーション部その他関係部署の各位にはご多忙にも係わらず多大なご尽力を賜りました。おかげさまで無事終了することができましたことを改めてお礼申し上げます。

病棟（ナースステーション）

薬剤部（調剤室）

病棟（病室）

リハビリテーション部

薬剤師国家試験制度の改革とその対策

－説明会と夏期講習会を終えて－

国試対策グループ（九川・宮部）

現在、薬学教育は大きな変革期を迎えています。薬学教育の6年制への移行に伴い、医療薬学教育の充実と長期実務実習の実施が求められています。また同時に、従来の化学と生物を中心とした基礎薬学教育も、薬を理解するための根幹となる重要な教育分野です。

6年制移行に伴い、試験制度も改革され、新たに4年生時に「薬学共用試験」が行われます。「薬学共用試験」は、学力試験（CBT：Computer-Based Testing）と臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）から構成されます。また、卒後時に行われる「薬剤師国家試験」も大きく改革されます。出題区分を、必須問題、一般問題（薬学理論問題、薬学実践問題）に3分類するほか、現行240問の出題数を345問に大幅に増やすことなどが決まってきています。これらの試験に備えるには、日頃から授業でしっかりと勉強して、実力をつけることが大切です。

今回、薬学部では、新しい試験制度に対応すべく、2年生を対象とした試験制度改革に関する「説明会」を開催しました。さらに、9月初旬には、基礎学力の向上を目的とした「夏期講習会：7日間（28コマ）」を開催しました。今後も、学力の向上と国家試験対策のための「講習会や模擬試験」を企画して参りたいと考えております。引き続き、保護者の皆様ならびに関係方々のご協力をお願い申し上げます。

薬学の試験改革

4年生（薬学共用試験）
- 学力試験（CBT）
- 臨床能力試験（OSCE）

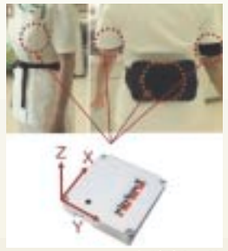
6年生（薬剤師国家試験）問題数の増加
- 「必須問題」と「一般問題」に大別される。
- 「必須問題」は、基礎知識を問う。
- 「一般問題」は、薬学理論問題と薬学実践問題から構成される。

医療用手洗い監視センサ共同開発について

兵庫医療大学　看護学部　土田　敏恵

手指消毒や流水下手洗いといった手指衛生は、感染予防のための必須の措置と広く認識されています。しかし、医療現場における実際の手指衛生順守率は4割程度と報告されており、世界各国で手指衛生順守率を上げる研究がなされています。手指衛生の研究においては、“効果的な手指衛生”であるかどうかということを測定の対象とすることが多く、効果的であるかどうかは、「適切なタイミング」と「正しい手技」の2つで評価されます。

今回、兵庫医科大学病院感染制御部とCCUの協力のもと、国際電気通信基礎技術研究所と共同開発したセンサは、上肢や腰部など身体に装着する小型の加速度センサで、手指衛生の動作を解析し、“正しい手技”であったかを評価します。従来の手指衛生の手技評価は、手指の細菌数の増減や、蛍光色素の除染（グリッターバグ®）の目視確認でした。しかし、これらの方法では培地に接触しない部分の評価ができなかったり、皮膚の肌理に影響されるという欠点がありました。センサシステムでは、各個人の手指衛生動作を、加速度と周波数から特徴量という数値で置き換えることにより、比較可能としました。学生や新卒者といった手指衛生初学者には、どの動作が不十分であるかを波形や数値で可視化し、ベテランに対しては、洗い方の癖やいつの手指衛生が不十分であったかを検知します。現在、臨床での実用化に向けて、看護業務を含めた動作解析のデータをCCUで収集させていただいています。上肢や頭などにセンサを装着した看護師さんを見かけたときは、実験中なんだなあと温かい目で見守ってください。



加速度センサ

流水下手洗い

平成20年度大学連携「ひょうご講座」『がんを知って賢く生きる講座』開講

平成20年9月9日から兵庫県民会館において、佐藤禮子副学長（看護学部教授）のコーディネートにより、兵庫医療大学および兵庫医科大学教員による大学連携「ひょうご講座」『がんを知って賢く生きる講座』を開講しています。

大学連携「ひょうご講座」とは、（財）ひょうご震災記念21世紀研究機構（兵庫県）が主体となり、県内4年制大学との連携により、さまざまな分野におけるアカデミックで専門的な大学教育レベルの講座を広く提供し、県民の方々の生涯学習の一層の充実に役立つことを目的とするものです。

今回のこの講座は、人間のからだとがん細胞の不思議にはじまり、種々のがんに対する理解を深めるとともに、がんと向き合いつつ、QOL（クオリティ・オブ・ライフ：生活の質）を高めて生きることについて考える、という趣旨のもので、初回は、松田　暉学長と佐藤禮子副学長による「がんと日本国の取り組み」を開講しました。講座は全12回で構成し、12月2日まで開講します（下記に講座一覧）。

講義日	テーマ	講演教員	
9月9日	がんと日本国の取り組み	兵庫医療大学学長	松田　暉
		兵庫医療大学副学長	佐藤　禮子
9月16日	人間のからだとがん細胞の不思議	兵庫医科大学医学部教授	辻村　亨
9月30日	がんを予防し早期発見する方法	兵庫医療大学共通教育センター教授	末廣　謙
10月7日	がんの集学的治療	兵庫医科大学医学部教授	冨田　尚裕
10月14日	呼吸器系がんの診断法と治療法	兵庫医科大学医学部教授	中野　孝司
10月21日	消化器系がんの診断法と治療法	兵庫医科大学医学部教授	笹子三津留
10月28日	女性系がんの診断法と治療法	兵庫医科大学医学部臨床教授	小森　慎二
11月4日	男性系がんの診断法と治療法	兵庫医科大学医学部教授	島　博基
11月11日	がんの告知を前向きに受け止める	兵庫医療大学副学長	佐藤　禮子
		兵庫医療大学看護学部助教	高山　京子
11月18日	がんと共に健康に生きる	兵庫医療大学看護学部教授	鈴木　久美
11月25日	子供のがんと向き合う家族	兵庫医療大学看護学部教授	藤井真理子
12月2日	緩和ケアと人生最後の日々を豊かに生きる	兵庫医療大学副学長	佐藤　禮子

第84回日本学生選手権水泳競技大会に800m自由形で出場しました

リハビリテーション学部　理学療法学科2年　鈴木　香

9月5日～7日に東京辰巳国際水泳場で開催された日本学生選手権水泳競技大会（インカレ）に出場させてもらいました。インカレはそれぞれの大学がシード権獲得と母校の名誉を賭けて挑む真剣勝負です。そのため会場内は母校を応援する大歓声が鳴り響き、熱気に包まれていました。その中で神戸からインカレのために来てくださった先生方や水泳部の皆さんの心のこもった応援はとても心強かったです。結果は満足できるものではありませんでしたが、北京オリンピック代表選手の泳ぎを生で見たり、今まで味わったことがない独特の雰囲気を感じながら泳ぐことができ、いろんな経験ができた3日間でした。インカレを通して、今度は選手としてではなく選手をサポートする理学療法士としてこの場所に来たいと強く感じました。インカレに出場できたのも、水泳部の皆さん・顧問の川口先生・教育学生支援グループの方々に協力していただいたおかげです。ありがとうございました。

規程等の制定・改正（規程等の全文は学内ネットに掲載）

No	項目	制定・改正の趣旨	制定・改正日
1	兵庫医科大学 協和会国際交流基金内規	国際交流範囲が拡大されたことにより、補助対象人数を拡大することに伴う改正	平成20年9月16日改正
2	病院規程	診療部等に置かれる診療部長等の責任者について、責任者となりうる職位等の範囲を定め明確にすること、また、情報センター設置に伴い医療情報部を中央診療施設から削除するための改正	平成20年10月1日改正
3	肝疾患センター運営規程	「肝疾患診療連携拠点病院」の指定を受けたことに伴い、県内の医療機関に対して肝疾患に関する指導的役割を担い、本学病院における肝疾患についての横断的治療を提供できるよう体制を整備するため「肝疾患センター」を設置し運営規程を制定	平成20年10月1日制定
4	肝疾患センター運営 委員会規程	肝疾患センターの円滑な運営を行うため、肝疾患運営委員会を置き規程を制定	平成20年10月1日制定
5	健診センター運営規程	人間ドック等の健診（検診）事業を平成20年11月から実施することとなり、中央診療施設に「健診センター」を設置し運営規程を制定	平成20年11月1日制定
6	兵庫医科大学篠山病院 給与規程	篠山病院の恒常的な職員の欠員状況を解消するため給与等処遇を見直していく一環として、深夜・準夜看護手当を改正	平成20年8月1日改正
7	兵庫医療大学 総合教育委員会規程	「学校法人兵庫医科大学医学・医療教育研修センター」設置に伴い、本委員会が兵庫医科大学及び関連機関との教育連携に関する兵庫医療大学内の協議体であることを明確にするための改正	平成20年10月1日改正
8	学校法人兵庫医科大学 物流センター規程	本学における物品等の調達が、合理的かつ適正に行われ、消費データの迅速な開示等により経営改善に貢献することを目的に物流センターを設置する規程を制定	平成20年8月1日制定
9	物流センター 実務検討委員会規程	物流センターの稼動を円滑に推進するため、物流センター構築検討委員会を改称し物流センター実務検討委員会を置くための改正	平成20年8月1日改正

兵庫医科大学　兵庫医科大学病院　篠山病院　兵庫医療大学　学校法人兵庫医科大学

組織改正

【物流センター】　8月1日改正

「物流センター」は、医療材料、医薬品等の購入から搬送、消費までの効率的な物流管理機能の構築のためのSPD化とこれによる継続的なコスト削減、調達コスト削減を図ることを目的に、本年4月以降設置準備が行われてきましたが、収支改善が必要な状況の中で早期稼動による経営貢献に向け、本年8月1日付で開設されました。

【肝疾患センター】　10月1日改正

本年4月に兵庫県から「肝疾患診療連携拠点病院」の指定を受けたことから、県内の肝疾患治療の中核病院としての指導的役割を担い、また、本院内での横断的治療を高度な水準で提供するため、中央診療施設に「肝疾患センター」が設置されました。

【健診センター】　10月1日改正

高齢化社会を迎え、生活習慣病の予防や心臓・脳血管疾患、がんの早期発見など健康増進・予防医療の観点から、旧1号館13西病棟において、人間ドック等の健診事業を行うため、中央診療施設に「健診センター」が設置されました。

兵庫医科大学支援型保育園がオープンします

本年12月1日、PETセンター南隣ビル4階に保育園がオープンします。
同園は、（株）タスク・フォースが全国展開する都市型保育園ポポラーの『兵庫武庫川園』としてスタートするもので、本学の子育て支援の一環として、職員が安心して働ける環境を整備することを目的としています。

定員約40名のうち、本学専用枠（30名）は診療に従事する常勤医師並びに病棟・外来部門の常勤助産師及び看護師を対象とし、一般枠（約10名）ではその他教職員、学生、地域の方等が短期間から月極まで幅広く利用できます。

物流センターの開設について

物流センター長　島　博基

はじめに

新家理事長の方針と山村病院長の要望を受けて、物流センターを関係各位のご協力により、早期に開設することが出来ました。物流システムの改革は、法人全体の永年の懸案でしたが、理事長の諮問機関である経営企画室にてSPD業務の要求仕様書が作成され、平成20年4月からは物流センター設置準備室にてその後の検討が行われました。懸案の物流センターは常務会および理事会の決定を経て平成20年8月1日に開設されました。

物流センターの運営

物流センターの扱う対象は医療材料、薬品、機器備品および委託契約等多岐に亘り、金額も法人全体で150億円を超えます。これらの流れを明確にするには大きな原則が必要です。それは見える化と追跡可能性（トレーサビリティ）の実現です。これまでこの二つの目的が達成されなかった最大の理由は横断的な情報の共有化のための組織努力とデータベースが形成されていなかったことにあります。現在は経営にスピードがとりわけ要求される医療環境になっており、経費節減と同時に収益を生み出す投資が必要です。物流センターの運営についても、各種のムダを省き、必要な投資を行い、経営改善を実現するために迅速に対応していく予定です。

この考え方の具体例として、VPPシステムがあります。資金余裕の無い病院全体の機器整備計画の中で、最先端の内視鏡下手術機器等を各科のリソース競合を排し、共有化することにより費用効果のある症例支払い単価で最新機器を使用し、効率の良い調達手段とメインテナンスを保証するVPP（value　per procedure診療行為単価別支払）は、まさにボトルネックを解決し、病院の診療環境を改善できる方法でした。これにより術者、看護師、技師がより快適な環境で働けるようになったことが何よりですが、費用対効果比の点も見逃すことができないプラス面です。

心カテ室高額材料のバーコード化

今回、物流センターで、関係各位の協力を得て、高額カテーテル等のバーコード管理を開始しています。時間的な事情で準備が十分では無く、現場からのシステム改善要望も多く出されていますが、問題点を解決していくことにより、看護師など医療従事者の業務が軽減される予定です。また、正確に、使用した物品を医事課にもれなく請求できます。これは本院はじめての試みですが、今回の心カテ室のバーコード処理化は、現場のご協力により本院における物流改革の大きな第一歩になると確信しております。

今後のスケジュール

経営改善に有用な消費情報の捕捉と現場支援業務を主として担うSPD事業者については、物流センター実務検討委員会での検討に続き、常務会で最終審議され、アルフレッサピップトウキョウ（株）に決定されました。新物流システムの提案内容の具体性と他施設での実績、価格競争力を含めたトータルバランスが評価されたものと考えます。施設改修工事が2か月程遅れているため、物流センターの本格稼動は遅れていますが、経営要請もあり本院と篠山病院を平成20年度末までに稼動させる予定です。施設改修の遅れと人員の増強がなされない中での稼動準備の連続でセンター職員にかなりの負担がかかっています。いろいろと至らない点は、どうぞご遠慮なくセンター長をはじめ、物流センターに要望してください。全力で対応することをお約束します。

終わりに

患者さんとその関係者が、本院での治療に大なり小なり満足していただくためには、医療の質が高いことが必要不可欠です。また、病院の経営は医療の質が高くなければ成り立ちません。医療の質を上げるためには、合理的に病院の収益性を上げることが必要です。働きやすい環境をつくるためには、医師を始めとする医療従事者および事務をされる方のたゆまない改善努力が必要ですが、長期的、多角的、根本的に主要な問題点を解決していかなければ、組織は旧弊化し、堕ちた偶像となるのが世の条理です。組織の硬直化が自らの崩壊を導くことは自明の理ですが、われわれは物流の改善は必ず業務改革につながり、病院の収益性に貢献すると言う信念のもとに働いています。勿論、われわれは皆様が医療の現場で力を発揮するための縁の下を支える役割を果たすサービス業務であることを認識しています。

幸い、良心的な医師を始めとする医療従事者の働く意欲は素晴らしいものがあります。物流センターは各人の努力が生かされるよう、皆さんとともに改革に向けて運営していきます。なお、4月以降の準備室を立ち上げて、検討委員会等で検討してまいりました過程等について、詳細を全て物流センターの学内ネットHPに開示しております。一度ご覧いただければ幸甚です。

省エネルギー　活動報告

施設整備課

(1) 平成19年度の省エネルギー取組み結果

前年度と比較して**52,000千円（本学全体のエネルギーコストの7.9%に相当）**のコスト削減を実施できました。その内、クールビズ・ウォームビズ他運用改善による取組み効果は**1,900千円**です。

平成19年度取り組みのトピックスとしては、国の補助金を活用した1号館熱源整備事業が完成（平成19年2月）し、その省エネ効果によって大幅なコスト削減が達成されたことが考えられます。また、原油高騰の影響を受けて、エネルギー単価の上昇（**32,900千円**）や外気（夏は暑く、冬は寒い）の要因によるコスト上昇（**15,000千円**）があり、省エネ効果によるコスト削減を相殺しています。

今後も様々な省エネ対策を進めて参ります。教職員の皆様にはより一層のご協力をお願いします。

【平成19年度省エネルギー取組み状況】

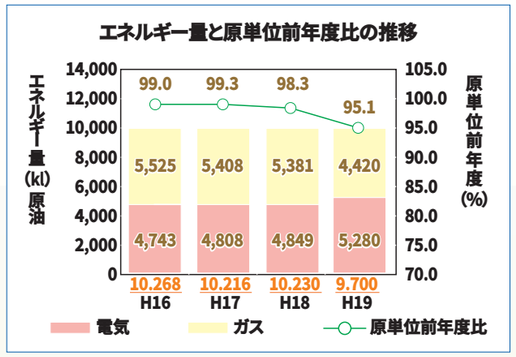
No.	省エネルギー対策及びその他による増減少要素	効果 金額【千円】	効果 全体比【%】
1	クールビズ・ウォームビズによる設定温度緩和他省エネ運用改善	△1,900	△0.3%
2	1号館熱源整備事業その他省エネルギー対策工事	△50,100	△7.6%
	省エネルギー実績（小計）	△52,000	△7.9%
3	外気の要因（平均気温夏季0.5℃上昇、冬季0.9℃低下）	+15,000	+2.4%
4	施設増設等（PETセンター稼動 +6,800千円、10号館MRI　増設 +3,300千円、1号館13階閉棟 △9,800千円）	+300	+0.005%
5	ガス料金単価の増額 +49,900千円 電気料金単価の減額 △17,000千円	+32,900	+5.0%
	総　合　計	△3,800	△0.6%

(2) 過去省エネルギー取組み結果の推移

エネルギー原単位は毎年1%程度の削減ができています。

特に**平成19年度は4.9%削減**を達成しました。

※エネルギー原単位：延床面積あたりのエネルギー消費量



これまでの主な省エネルギーの取り組み

- ●平成16年度
  - ①各機械室電気室の換気ファンの温度発停の導入
  - ②ボイラー運用改善
  - ③熱源ポンプの流量適正化
- ●平成17年度
  - ①省エネルギー推進委員会発足
  - ②各棟空調ポンプにインバーター制御導入
  - ③「クールビズ」、「ウォームビズ」の実施
- ●平成18年度
  - ①事務局の昼休みの一部消灯
  - ②各廊下の照明電灯の間引き
  - ③5号館ELVを夏休みに1基休止
  - ④1号館室内負圧の解消（すきま風の侵入の軽減）
- ●平成19年度
  - ①1号館熱源整備事業
  - ②1号館外来系統空調機のインバーター制御導入
  - ③8・9号館の蒸気ドレン回収
  - ④コージェネの運転パターン改善
  - ⑤5号館ELVを夏休みに1基休止
- ●平成20年度
  - ①10号館電気室冷房温度の変更
  - ②2・5号館空調ポンプにインバーター制御導入
  - ③5号館ELVを夏休みに1基休止

(3) 啓発活動

・省エネ効果を記載したポスターを掲載

・省エネホームページを公開

・平成20年7月6日にBSジャパンで「顕著な省エネを現場で実現している具体例の紹介」として、本学の省エネへの取組みを放映。

兵庫医療大学のための募金　状況報告

「兵庫医療大学」のための募金活動を平成18年5月に開始して以来、これまでに教職員をはじめ、後援会（保護者）、緑樹会（卒業生）、名誉教授、退職者等（613名）は言うに及ばず協力医療機関や関連病院等を始めとする幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。

本学法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、感謝の意を表したいと存じ、下記のとおり報告させていただきます。

皆様からご寄付いただきました寄付金を兵庫医療大学の教育研究用施設整備等充実に利用させていただくとともにこれからも全力で大学の合理化推進等により、必要資金確保に向けて自主的努力を重ねてまいりますが加えて、ぜひとも関係各方面からの更なるご支援を仰ぎお力添えをいただきたく、引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

募金推進室

18. 5. 2〜20. 8. 31

区　分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合　　計	
	件　数	金　額	件　数	金　額	件　数	金　額
申　込	339件	542,744,000円	646件	188,330,000円	985件	731,074,000円
入　金	313件	521,994,000円	619件	187,230,000円	932件	709,224,000円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

20. 7. 1〜20. 8. 31

企業等法人（26法人）

3,000,000円　株式会社　日本医療事務センター様

（ご芳名のみ記載）

エフ・ジェイ・ビー・サプライ　株式会社様
株式会社　ホクシンメディカル様
兵田印刷工芸　株式会社様
芙蓉総合リース　株式会社様
株式会社　日興商会様
日清キョーリン製薬　株式会社様
CSLベーリング　株式会社様
株式会社　島津製作所神戸支店様
日機装株式会社　医薬機器カンパニー様
宮野医療器　株式会社様
匿名　　3社

卒業生父兄

1,000,000円　是比田　穣様

退職者

100,000円　三好　功峰様

教職員

250,000円　冨田　尚裕様
藤元　治朗様
笹子　三津留様
120,000円　三好　康雄様
70,000円　栗林　康造様
樽谷　勝仁様

30,000円　岡田　敏弘様
邱　君様
田村　邦宣様
田端　千春様
田中　康一様
村元　正和様
20,000円　田中　進様
妻野　知子様
10,000円　中嶋　昌美様
景山　利恵様
西川　裕子様

（ご芳名のみ記載）

井上　龍太様　　廣部　麻由子様
津田　達也様　　蔭山　晶子様
里村　智美様
匿名　　7名

建設中の体育館全景（神戸女子大学側から）

〈8月31日現在〉

卒業生紹介

第1期生
平田 俊吉 さん
平田循環器内科院長

第2期生
平田 二紀代 さん（旧姓 中井）
ひらた循環器クリニック院長

近況

平成8年10月に父親が急逝し、その後を継いで循環器内科の診療所を開設いたしました。以後、地元（東京都）に密着した医療を続けております。医師会では、公衆衛生担当理事として市民健診（特定健診）、新型インフルエンザ対策、医療廃棄物等に関わっております。緑樹会では関東支部の立ち上げに参加させていただき、年に一度支部会を開催しております。

妻（二紀代）は、平成18年5月、武蔵小金井市に診療所を開設いたしました。元々、近くの病院に20年以上勤務していたので、これまで診させていただいていた患者さんを開業医の立場から引き続き診療しております。

学生時代

関西には全く知り合いがいなかったので、入学時の保証人にはたまたま泊まった旅館のご主人にお願いしました。全くの単身でスタートした学生生活では下宿やアパートを転々としましたが、一緒に生活した同級生、後輩たち、あるいは他大学の学生たちと過ごした日々は貴重な経験となりました。

授業では第一内科（循環器内科）の依藤教授の講義に興味を持ち、卒業後の進路も循環器内科を目指そうと決めておりました。

卒業後に学んだこと

卒業後は実家に帰り、杏林大学病院第2内科に入局いたしました。このころは他大学からの入局者は無く、他校からの入局者は私一人で不安でしたが、主任教授を筆頭に医局員の先生方からは出身校に関係なく暖かい御指導をいただきました。妻も一年後に同医局に入局し、同大学の大学院を卒業することができました。また医局の先生方の協力もあり、子育てをしながら医療を続けることもできました。

兵庫医科大学に期待すること

阪神間の医療を支える重要な拠点として貢献していただきたいのはもちろんですが、医学に関わる研究機関としての役目も果たしていただき、国内だけでなく世界に通用する一流の研究を目指すような人材を育成してほしいと思います。

学生の皆さんへ

医療をビジネスとして捉えてしまうと、同じ給料ならば仕事は楽な方が良いと考えてしまうでしょう。しかし人の命を預かる職業ですから自らを犠牲にしなくてはならない場合も多々あります。とてもビジネスライクにできる仕事ではありません。ひとりの医療人としての誇りをもって将来の進路を決めてほしいと思います。

略 歴

平田　俊吉
昭和53年 3月　兵庫医科大学卒業
6月　杏林大学病院第2内科入局
昭和55年 6月　同病院助手
昭和60年10月　国立大蔵病院勤務
昭和62年 4月　杏林大学病院第2内科助手
平成 3年 4月　同病院講師
平成 4年 6月　黎明会南台病院循環器科部長
平成 9年 1月　平田循環器・内科　開設
平成16年 4月　立川市医師会公衆衛生担当理事

平田　二紀代（旧姓：中井）
昭和54年 3月　兵庫医科大学卒業
4月　杏林大学病院第2内科大学院入学
昭和57年 4月　聖ヨハネ会桜町病院勤務
平成16年 3月　同病院内科部長
平成17年 5月　ひらた循環器クリニック開設

第13期生
北村 文彦 さん
三重大学大学院医学系研究科
講師

近況

平成18年に三重大学に移り、教育と研究を行っています。専門は公衆衛生学全般ですが、産業保健が主要なテーマです。当初は、産業中毒学の診療と研究を中心としていましたが、産業医もしている関係で、うつ病をはじめとするメンタルヘルス問題に直面し、最近はこのテーマにも取り組むようになってきました。

学生時代

一言で言うと、当時をご存知な方々は否定しないであろう位、不勉強な学生でした。その反面、自分では、学内外での多くの方々との出会いがあるなど充実した学生生活を送らせていただいたと思っています。それらの一部が現在の自分の進路の基となっています。また5、6年生時には、故城勝哉教授の第1解剖学教室に勝手に居候し、机までいただき、現教授の関真先生、伊東久男兵庫医療大学教授をはじめとする教官や大学院生の方々から、公私にわたり実に多くのことを教えていただきました。

卒業後に学んだこと

卒後は故下山孝教授の第4内科に入局しました。医局の先生方は個性的な方が多く、厳しく、時には楽しく過ごさせていただきました。研修の途中半年間お世話になった病院病理部では、植松邦夫教授から常にお説教を頂戴する有様でした。最近少しずつですが、当時のお言葉の意味が理解できるようになってきました。非常にありがたく思います。大学院は、学生時代から予防医学、産業医学に興味があり、公衆衛生学に進みました。東京での新しい生活は戸惑いと苦労もありましたが、実に多くの経験と多種多様な方々との出会いがあり、有意義な時期でもありました。「ベクトルをたとえわずかでも、歩みは遅くとも、常に前方に向けておく」ということを当時から感じ、今も折に触れ自分に言い聞かせています。

兵庫医科大学に期待すること、学生の皆さんへ

他大学で過ごした時間の方が多くなってきましたが、兵庫医大は他大学と比べても、誇れるいい大学だなあと常々感じています。学生時代には新家荘平教授（現理事長）をはじめとする先生方と、取りとめもない話から兵庫医科大学のことなどを教室や近くの飲み屋で熱く語り、遅くまでお付き合いいただく機会が多くありました。熱く、自由な校風というべき文化が受け継がれていることを期待します。また、未だ道の入り口付近でうろうろしている私が言うのもなんですが、その時々の出会いを大切にしてください。私は非常に恵まれていて多くを学ばせていただきました。

略 歴

平成 2年 3月　兵庫医科大学卒業
平成 3年 6月　兵庫医科大学第4内科入局
平成 5年 4月　東京大学大学院医学系研究科博士課程入学（社会医学系専攻）
平成 9年10月　東京大学大学院医学系研究科助手（公衆衛生・産業医学講座）
平成12年 3月　東京大学大学院医学系研究科博士課程修了
平成13年 8月　独立行政法人産業医学総合研究所研究員
平成18年 4月　三重大学大学院医学系研究科講師（公衆衛生・産業医学分野）

質の高い麻酔を目指して

麻酔科　助教｜長尾　嘉晃さん

兵庫医科大学病院

麻酔科

患者さんと同じ目線で

麻酔科医になったのは、救急医療に携わりたかったことや専門性が高かったこともありますが、何より必要とされていると感じたからです。当院でも、手術を受けられる患者さんの麻酔管理をはじめ、ICUやペインクリニック部など、麻酔科医が必要とされる場所は増えています。

医師になった当初は、手術室という特殊な環境と、一人の患者さんに関わる時間の速さについていけなくて戸惑いましたね。加えて、患者さんに手術・麻酔の説明をする時間はほんのわずか。その間に、患者さんの信頼を得て不安を取り除かなければいけない。患者さんはベッドに寝ておられることも多いので、患者さんと同じ目線で説明することを心がけています。

オン・オフがはっきりとした職場

現在、20名前後で眼科も合わせて16の手術室を担当しています。長い手術は15時間以上。2、3時間の手術が3～4件続く日もあります。「無事で当然」という中で仕事をするプレッシャーはもちろんありますが、その分やりがいもありますね。

勤務中は刻一刻と変化する患者さんの状態に対応するため常に緊張を強いられますが、安全性を高めるため当番制になっており、仕事のオン・オフがはっきりしています。休みの日には、中央手術部の看護師も一緒に、バーベキューをしたり、冬はスノーボード、夏は四国にラフティングに行ったりしています。手術室ではチームワークが大切ということもあり、看護師も含めて本当に仲がいいですね。

女性が多い麻酔科医

最近、麻酔科の同僚が無痛分娩で出産しました。日本では麻酔科医の不足もあり、なかなか普及していない無痛分娩ですが、同じ麻酔科医である私の妻が麻酔を担当して無事元気な男の子が生まれました。

質の高い麻酔にはやはりマンパワーが必要です。麻酔科医の数が多ければ、今は病棟の医師に任せられている手術後の鎮痛についてももっと質を上げられると思いますし、麻酔科医のいる産科婦人科が増えれば無痛分娩も普及していくと思います。

麻酔科医の女性の割合は多く、当院でも約半数が女性です。しかし、当直もあり、結婚・出産を機にやめてしまうことも多いのが事実です。職場環境の改善も含めた麻酔科医の確保を進め、より質の高い麻酔を目指していきたいと思います。

技術と判断はプロとして、気持ちは家族として

看護師｜西村　裕美子さん、河岡　千寿さん、増元　洋美さん（左から）

兵庫医科大学病院

看護部　外来化学療法室

外来化学療法室では、平成17年に開設した当時、消化器内科と呼吸器内科だけの化学療法を月150件ほど行っていました。平成19年10月から現在の場所に移転し、今年の7月には月280件、外来化学療法全体の約74%を占めるほどになりました。8月から現在の3人で点滴の管理や副作用の観察などの看護を行っています。

患者さんと一緒の安全管理

抗がん剤は毒性が強いため、確実な静脈の確保や、点滴の時間、スピード、順番を守るなど、安全、確実、そして安楽な治療のために普段から神経を使っています。

入院中の患者さんだとベッドにお名前が書いてありますが、外来なので間違いの無い点滴投与のため念を入れた確認が必要です。ベッドサイドに処方箋を置き確認したうえで、患者さんご本人にも点滴の名前を一緒に読み上げていただいて、必ず患者さんの目を通ってから点滴を行うようにしています。患者さんにとっても面倒だとは思いますが、患者さんの主体性を高めるという効果もあり、皆さん嫌な顔をせずにご協力いただいています。

また、ボトルを交換する時に抗がん剤が皮膚に付着したり、空気中から気管に入ることで看護師も被爆してしまいます。自分たちの身も守るためにも質の高い手技と意識が必要です。

他部門との連携、協力を

点滴にかかる時間は、長い方で7時間。その間に身体への不安や日常生活の悩みを話される方もいらっしゃいます。化学療法室にはじめて点滴に来られる方には、原則として最初にソーシャルワーカーと話していただいていますが、治療中も出来る限り患者さんの悩みを聞き、ソーシャルワーカーや薬剤師につないだりしています。

また、患者さんは外来で診察を受けて治療だけここに来られますし、入院治療から外来治療に移行される場合がほとんどです。外来や病棟とリアルタイムで確実な情報交換ができれば、準備や説明などの点で広がることも多いと思います。互いに忙しい中でも、患者さんにとって何が一番かを考えながら、緩和ケアチームやNST（栄養サポートチーム）も含めた多くの部署と情報共有や連携を深めていきたいと考えています。

それぞれの思い

病気になるということが与える影響は大きく、患者さん1人の問題ではなくなります。ライフスタイルが変わって、経済的な負担も大きくなる。患者さんとお話しするとき、仕事や家族背景などを聞くように心がけています。そこから見えてくるものは患者さんとの関わりの中ではたいへん大きなものですし、ご家族ともコミュニケーションを取って支援をできたらいいなと思います。（増元さん）

病気になったことで今までと同じ生活をあきらめる患者さんが多いですが、治療を受けながらできることもたくさんあります。患者さんの希望が叶うような働きかけが少しでもできればと思いますね。「もういけないと思っていたけど北海道は楽しかった」「あきらめていたけど、ゴルフに行ってきてさ」などと楽しげに報告してくださるような時、この仕事をやっていて良かったなと思いますね。（河岡さん）

他の病院に勤務していましたが、兵庫医科大学病院には、患者さんにとってどのような環境が良いのかということを、常に業務の視点から考え頑張っている看護師が多いことに驚きました。「出来ない」ではなく「どうしたら出来るか」を考え、出来ることから看護につなげていきたいと思っています。（西村さん）

職場 REPORT リポート

学生の笑顔と、変化を感じる瞬間が嬉しい

共通教育センター　講師｜賀屋　光晴さん

兵庫医療大学
共通教育センター

共通教育センターの役割

共通教育センターには、現在教授7名と講師3名の計10名が所属しています。教養だけでなく豊かな人間性を備えた医療従事者の育成のためのカリキュラムと、チーム医療の実践に役立つ、学部および職域の垣根を超えたボーダーレス教育を実施しています。

また、兵庫医療大学ではモチベーションアップにつなげるため1年次の夏休み前に早期臨床体験実習を行っていますが、共通教育センターでは実習に必要な知識や心構え、さらには感染症対策まで含めたコーディネートを行い、学生をサポートしています。

後列左から高木講師　加藤講師　伊東教授　秦 教授　賀屋講師
前列左から前田教授　磯 教授　末廣教授　磯部教授　藤田教授

コミュニケーション能力を高める

私が担当するのは主に体育実技ですが、学生にとって週1コマの体育実技は、授業の中で唯一、自由にしゃべって笑える時間だと思います。バレーボールや卓球、バトミントンなどを通じて、体を動かすだけでなく楽しみながらコミュニケーションをとることができます。下の名前順とか誕生日順とかでチーム分けするなど、学生同士がお互いに情報交換をできるような工夫もしています。いろんな人とコミュニケーションをとることが、将来チーム医療や患者さんとの関係作りに生きていくと思っています。

高齢者や障害者が行う場合どこに気をつけたらいいか、というような課題を与えることもあります。また、ニュースポーツや、正式なルールにのっとってとまではいきませんがシッティングバレーやサウンドテーブルテニスなどの障害者スポーツの体験などもしています。

新しい体育館に期待

今は外部に体育館を借りているので授業のたびに移動していますが、来年度からは本校の新しい体育館が使えるようになります。共通教育だけでなく専門教育に入ってからも、車いすを使ったり運動療法の実習をしたりと色々な使い道があると思いますから、体育館ができることで行えることの幅は大きく広がると期待しています。

いろんな経験・体験をしてほしい

私は小学生の頃から柔道をやってきましたが,柔道をやって良かったと思うのは、多くの経験ができたことだけでなく、チームメイトや先輩、試合の相手、そして社会とのつながりができたことです。学生たちにも、そのようなつながりを作れるような経験・体験をたくさんしてほしいと思います。失敗や恥を恐れずにどんどんチャレンジすれば、人とのコミュニケーションも増えていくし、疑問に思ったりわからなかったりすることを明らかにしていくことで自分の勉強にもなる。精神的にも強くなるはずです。一歩が難しければ半歩でもいいから、積極的に踏み出してほしいですね。

Join us! 第4回
～課外活動紹介～

兵庫医科大学

短期集中型で練習しています

剣道部　主将　3年生　渡邊　高志さん

現在、男子15名、女子8名の23名で活動しています。週に3回2時間ほど、平成記念会館の剣道場で練習しています。文武両道を目指し、またプライベートを充実させるためにも、短期集中型で稽古に取り組んでいます。春と秋に関西、夏に西日本で、また、冬には女子の京阪神の大会があり、それぞれが目標に向けて頑張っています。

1年生から6年生までが和気あいあいとアットホームな雰囲気の中で練習しています。部員数も多くなり、ますます活気があふれてきました。今後は大会でも常勝できるよう頑張っていきたいと思います。

礼儀にも気をつけています

硬式庭球部　キャプテン　4年生　皆川　知洋さん

現在、男子15名、女子18名の33名で活動しています。週に3回、東鳴尾テニスコートと鳴尾浜臨海公園テニスコートで練習しており、年3回の合宿を行い、春と夏の大会に向けて頑張っています。他にも、1・2年教養戦、追いコン、OB戦、BBQ、花見、クラブ旅行など、様々なイベントも行っており、プライベートでも皆で旅行を楽しんだりしています。

男女共に仲が良く、また先輩と後輩の仲も良く、明るく楽しい雰囲気で活動しています。

しかし、硬式庭球部は仲が良いだけではありません。皆、礼儀もしっかりしています。医師になってからの振る舞いや人間関係のためにもなると考えており、そこもまたこの部の良いところだと思っています。

チームメイトの仲が深まりました

野球部　主将　薬学部2年生　小林　慎さん

現在24名で活動しており、週2回練習しています。公共のグラウンドが借りられる時は、試合形式で練習しています。

部員はまったくの初心者から、甲子園を目指していた硬式野球経験者まで、幅広く所属しています。とても仲が良く、「野球が好き!」というメンバーが集まっています。甲子園で一緒に野球観戦をしたり、食事会や忘年会を開いたり、部活以外でも仲が良いチームです。皆、一人の人間であること、兵庫医療大学の看板を背負っていること、野球を心から楽しむことをモットーに活動しています。

この夏、岡山県で合宿を行い朝から晩まで野球漬けの生活を過ごしました。厳しくもありましたが、とても楽しく、チームメイトの仲が深まりました。関西医歯薬準硬式野球連盟の秋季リーグ戦に初参戦します。兵庫医療大学野球部として、初めての挑戦です。二部リーグで優勝を果たし、一部リーグ昇格を目指したいと思います。

作品制作に取り組んで行きたい

芸術研究会　部長　薬学部2年生　谷口　智美さん

現在8名が所属し、定期的に作品制作に取り組み、展覧会や大学祭に出展しています。お互いの大学祭に作品を展示したりと、兵庫医科大学の美術部とも交流があります。

皆で美術鑑賞に行ったりもします。メンバーはそれぞれとても個性的で、突飛な部分もありますが、全体としてのまとまりがあり仲良く活動しています。定期的に作品制作するように努力していますが、皆が自由な雰囲気で行えるように気をつけています。

今年の夏は、メンバー全員で京都に合宿に行き、炎天下の中で、デッサンや写真撮影を行い、楽しく充実した時間を過ごしました。

今後は、積極的に展覧会を開催したいと思います。兵庫医科大学美術部と共同でアトリエのようなところを借りて展示会を開催するというのも企画中です。他大学とも交流を持ったりしながら、どんどん作品制作に取り組んで行きたいと思います。

最近の新聞記事より

病院刷新の方針策定へ

「社会の公器」の役割に存続決定

兵庫医科大の新家理事長に聞く

地域住民も医療に協力を

医師確保が最大課題

平成20年8月10日　丹波新聞掲載記事

9月29日 クロアチア共和国駐日大使（Dr.ドラゴ・シュタンブク氏）が兵庫医科大学を表敬訪問

本学はクロアチア共和国のリエカ大学医学部と2007年10月に学術交流協定を締結いたしました。その協定に基づき、2008年7月に本学とリエカ大学で約1ヶ月間の交換留学が行われました。（P11参照）

この度、クロアチア駐日大使が来阪される際に、本学を訪問いただき両国の親善・友好を深める機会を得ました。当日はリエカ大学との交換留学の説明を行った後、大学、病院の施設見学を精力的に行いました。大使は、「国と国の交流の要は人と人の繋がりである。今後も学生の方々の留学などの交流をサポートしていきたい」と述べられました。

クロアチア共和国駐日大使
Drドラゴ・シュタンブク氏

前列着席者左より、新家理事長、クロアチア共和国駐日大使:Drドラゴ・シュタンブク氏、波田学長、香山教授、
後列左より、鈴木教授、古瀬講師、クロアチア共和国リエカ大学留学　5学年次学生　桝田智仁さん、笹沼ちか子さん、
石田理沙さん、山村病院長、野口教務部長、冨田教授、小谷准教授、世話人:尾田義行様

兵庫人 挑む

いかに生き、死ぬか、患者と共通の問題

メスの先に思いやりの心

①ゴッドハンド

平成20年8月3日　神戸新聞掲載記事

一冊の本との確かな出会い
きまざまなかたちで「本」と「人」が出会う場所がここにあります。

紀伊國屋書店
http://www.kinokuniya.co.jp/

梅田本店　TEL (06) 6372-5821
〒530-0012 大阪市北区芝田 1-1-3 阪急三番街
神戸店　TEL (078) 265-1607
〒651-8511 神戸市中央区小野柄通 8-1-8 そごう神戸店 新館 5F

健康と福祉に貢献する

医療機器・医用電子機器・衛生材料
アンギオ用カテーテル・内視鏡製品
整形外科用器械・病院設備全般

YAYOI Corporation 医療機器
株式会社やよい

Good Chemistry for Tomorrow 三菱ケミカルホールディングスグループ

67億の健康。
67億の未来。

未来へ広がる、無限の可能性。
田辺三菱製薬、動き出す。

田辺三菱製薬
www.mt-pharma.co.jp

SMBC 三井住友銀行

●西宮支店
〒662-0918　西宮市六湛寺町14-12
TEL　(0798) 33-5271
窓口　平日 9:00～15:00
ATM　平日・土曜 8:00～23:00、日曜 8:00～21:00

●兵庫医科大学出張所（ATMのみ）
ATM　平日 8:45～19:00、土曜 9:00～17:00

azbil
人を中心としたオートメーション

アズビル　検索
http://jp.azbil.com

山武グループ　azbilは山武グループのシンボルマークです。

広報課より

読者アンケートを行います。

今年度4月号からリニューアルして4度目の発行となりました。リニューアル後の感想を伺いたく、読者アンケートを行います。
より充実した紙面づくりのためにご協力くださるようお願いいたします。

締切:11月28日

アンケート用紙について

兵庫医科大学・兵庫医療大学の教職員、学生の方は学校法人兵庫医科大学ホームページからダウンロードしてください。
卒業生、保護者、その他の方は、広報誌と一緒にアンケート用紙を同封しております。

学校法人兵庫医科大学（広報）　URL:http//www.corp.hyo-med.ac.jp/guide/activity/public/

送付先について

兵庫医科大学の教職員、学生の方	兵庫医科大学10号館2階の広報課のアンケート回収ボックスに投函か、FAX又はメール
兵庫医療大学教職員、学生の方	兵庫医療大学セントラルオフィスのアンケート回収ボックスに投函か、FAX又はメール
卒業生、保護者、その他の方	FAX又はメール

メールアドレス:kouhou@hyo-med.ac.jp　　FAX:0798-48-6261（TEL:0798-45-6655）

11月・12月の行事予定

11月

6日	兵庫医科大学病院	人間ドック開始	
12日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「人工関節の最近の進歩」	整形外科 教授 吉矢 晋一
15日	兵庫医療大学	平成21年度推薦入学試験＜全学部 専願制＞	
16日	兵庫医科大学	平成21年度推薦入学試験	
16日	兵庫医療大学	平成21年度推薦入学試験＜薬学部　併願制A日程＞	
22日・23日	兵庫医科大学	大学祭「医聖祭」	
26日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「放射線治療の最前線」	放射線科 准教授 上紺屋 憲彦

12月

6日	兵庫医療大学	平成21年度推薦入学試験＜薬学部　併願制B日程＞	
10日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「甲状腺の病気 ― バセドウ病と橋本病 ― 」	内科 内分泌・代謝科 准教授 森脇 優司

おわびと訂正	広報第195号において誤りがありましたので、おわびして訂正いたします。 30ページ「平成19年度決算について」「賃借対照表」『負債の部』科目 （誤）　固定資産　　（正）　固定負債

学校法人兵庫医科大学　関連事業会社

（株）エイチ・アイ
各種業務受託、人材派遣、物品販売
Tel.0798-45-6656

(有)エイチ・アイ・サービス
損害保険、生命保険代理店
Tel.0798-45-6673

西宮市武庫川町1-1
兵庫医科大学10号館1F
http://www.hi-hyogo.com/hi.html

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

2008年10月号　vol.196
発行日／平成20年10月25日

発行／学校法人兵庫医科大学
広報室　広報課
兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL：0798-45-6655
FAX：0798-48-6261
E-mail：kouhou@hyo-med.ac.jp
http://www.corp.hyo-med.ac.jp/

印刷・製本／株式会社ゼネラルアサヒ

ご子弟、ご親族、お知り合いの方に、薬剤師、看護師・保健師・助産師、理学療法士、作業療法士を将来目指されている生徒さんがおられましたら、是非「兵庫医療大学」をお勧めください。

平素は、兵庫医療大学の運営にご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。おかげさまで本学も今春2期生を迎え、ますます学内も活気づいてきています。

これから、3期生となる次年度入学生の募集活動が本格化する時期となり、本学教職員も学生募集に全力を挙げておりますが、兵庫医科大学および兵庫医療大学保護者の皆様、両大学教職員および兵庫医科大学OBの皆様ほか、関係各位におかれましても、是非とも本学学生募集に一層のお力添えを頂きたく、お願い申し上げます。

大学案内・入学願書セットをご希望の方には無料で送付させて頂きますので、下記までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

薬学部医療薬学科（6年制）	入学定員150名
看護学部看護学科	入学定員100名
リハビリテーション学部	
理学療法学科	入学定員 40名
作業療法学科	入学定員 40名

学校法人兵庫医科大学
兵庫医療大学

〒650-8530 神戸市中央区港島1丁目3番6
TEL：078-304-3000（代表）
TEL：078-304-3034（願書請求／広報G）
FAX：078-304-2734（　〃　）
URL　http://www.huhs.ac.jp/